

2-2-3 第2次産業

本町は、高田工業団地、新鶴工業団地、あいづ本郷北工業団地の3つの工業団地を有します。高田工業団地では、新鶴スマートインターチェンジまで約10分、会津若松インターチェンジ（会津若松市）まで約30分という好立地を活かした企業誘致を行っています。

工業団地には、食肉（馬肉）加工工場や良質で豊富な地下水を活かした醸造工場のような特色ある製造工場が立地するほか、金属加工、工業用機械やその部品等を製造する製造業、運輸業や農産物の集積倉庫等第1次産業を支える33の企業が入ります。

また、工業団地以外にも町内には各種製造業の事業所があり、町の産業を支えています。

2-2-4 第3次産業

町内の商業施設は9施設（スーパー：5、コンビニエンスストア：4）が高田地域・本郷地域に立地しています。また、高田地域及び本郷地域に商店街が形成されており、卸売業および小売業を営む202の事業所があります（平成26年時点）。（出典：iタウンページ及び「会津美里町町勢要覧2016」）



高田工業団地に入る醸造蔵

2-2-5 観光

(1) 観光資源

①自然、景観

「会津五桜」の薄墨桜や虎の尾桜等をはじめ、町内には桜の名所が点在するほか、あやめやフジ、蓮などの花の見所が多く立地します。また、町内全域では会津らしい田園風景が広がり、磐梯山や飯豊山等の山並みを見ることができます。

【花】米沢の千歳桜、宮川の千本桜、知恵桜（文殊院）、虎の尾桜（法用寺）、向羽黒山城跡の桜、馬ノ墓の種蒔桜、薄墨桜、あやめ苑のあやめ、龍興寺の蓮池、八木沢の菜の花畠等

【動植物】蓋沼の浮島、モリアオガエル、ホタル等

【風景、眺望】田園風景、新鶴の丘陵地の風景、磐梯山・飯豊山と山並み等

②歴史、産業

会津発祥の地の由来を持つ伊佐須美神社が立地するほか、天海大僧正生誕の地としてゆかりの寺院が高田地域に点在しています。また、高田～新鶴地域至る町の山側には、会津ころり三觀音の中田觀音や三重塔を有する法用寺など、会津の古刹が立地します。

本郷地域には、蘆名氏が戦国時代に築城した山城である向羽黒山城跡があり、さらに、瀬戸町周辺には、伝統的工芸品である会津本郷焼の窯元が点在して、焼き物の里を形成しています。

【歴史文化】天海大僧正、伊佐須美神社、中田觀音、法用寺、龍興寺、左下り觀音、会津三十三觀音、向羽黒山城跡、下野街道、左下り觀音堂等

【産業文化】会津本郷焼窯元、登り窯、陶祖廟等

③観光施設

本町は、3つの町営温泉施設のほか、オートキャンプ場やスポーツ施設等を有しています。

【観光施設】新鶴温泉健康センター、本郷温泉湯陶里、あやめの湯、蓋沼森林公園等

④食、農業

会津本地の気候や地理的特性から、質の高い米、

おいしい野菜や果実等を季節ごとに味わうことができます。特に新鶴地域では、かつてオタネニンジンが広く栽培されていましたが、現在は、代わりにぶどう（食用・ワイン用）が栽培されています。



伊佐須美神社の田植神事（御田植祭）田あらし



伊佐須美神社の田植神事（御田植祭）田植式



歳の神



観光ガイドの活動

特にワインぶどうの品質は高く評価されており、大手醸造事業者と契約しています。

【1次品】米、野菜、ぶどう、高田梅、会津身不知柿、りんご、オタネニンジン、えごま等

【加工品】ワイン、日本酒、高田梅漬、高田せんべい等

【料理】桜肉等

⑤祭・イベント

12月を除き、ほぼ年間を通して祭りやイベントが実施されています。伝統行事として行われている祭りも観光資源としてとりあげます。

【祭り】西勝の彼岸獅子、花祭り、御田植祭、高橋の虫送り、せと市、陶祖祭、秋季祭礼、へびの御年始等

【イベント】炎の郷・向羽黒山城跡ふれあい茶会、あやめ祭り、奇祭・大俵引き、文殊祭等

(出典：「会津美里町観光振興計画」)

本町における観光資源は数多く存在します。しかし、現状では相互の関連性は重視されていません。

一方で、「会津の三十三観音めぐり」の影響もあってか、左下り観音堂にウォーキング等で訪れる人が増加しています。

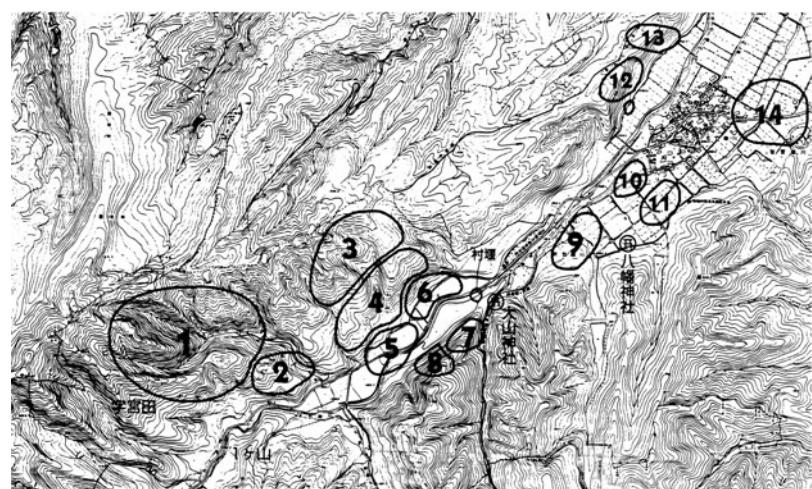
近県の観光客や何度も会津を訪れる観光客の間で求められているものが、「その土地特有の様式や風土を感じさせるゆとり」という、その地域ならではのものに変化してきているものと考えられます。

観光の推進にあたっては、町と町観光協会が連携して事業を行っており、観光ガイドの育成や観光資源の掘り起こしや磨き上げ、受入体制の整備を行っています。

特筆すべきは、集落ごとに行われている伝統行事等の無形民俗文化財です。

「伊佐須美神社の田植神事（御田植祭）」を筆頭に、町指定文化財である「田子薬師堂の花祭り」や「高橋の虫送り」、「瀬戸市」等のほか、未指定の歳の神や団子さし等は、本町及び会津地方ならではのもので、観光資源としての大きな可能性を秘めています。しかし、保存・継承地域においてその

- ①常福山 新屋敷の常福院は昔北の山の麓②にあったと伝えられ延元元年（1336）新屋敷に移り東光密寺と称し天正元年（1573）5月8日萬田孫兵衛明信再興とあり斎様備中守明信の次男萬田孫兵衛明重天正16年（1588）7月27日下梁田常福院開基とあり（雑考）
- ②坊舍跡 大日如来③大日山の坊舍跡として此処には仁王門堂塔、大師堂、客殿、大同寺、宝童寺、常福院、坊内に数字造営、鐘楼、本堂等坊数12宇あり文禄5年（1596）3月17日佐賀瀬川の村民古堂を乞求めこれを建立す元和7年（1621）3月8日弥陀、薬師の二尊が紛失す其の時の給人（寺院管理者）梅原弥佐衛門堂及び屋敷を寄進し現在の地に奉移したとある、大日堂は宝永2年（1705）酉仲秋上旬黒岩山興隆台寺なり（雑考）
- ③大日山 住古大沼郡三島町間方村に横雲山高野寺があり大同2年（807）僧空海恵日時を建立しその来寺として本尊大日如来を彫り三十六坊を造営（前坪山）会津五高野（恵日時、惠隆寺、八葉寺、大高野寺）の一つとして地方民の信仰があったその後仁平元年（1151）平忠盛の命を奉じ寺院坊舎共に焼亡され大日如来は火中より出で前坪山の岩間に隠れ給ふ天文3年（1534）3月21日逆瀬川村（大日山）に遷座する大日山12坊の寺山なり（旧事雑考）
- ④寺 山 ⑤⑥寺家 ⑥上寺家⑥は下寺家と云へ共に寺領なり
- ⑦堅穴住居 26基あり未発掘のため不詳
- ⑧館 山 中世の頃当地方を支配した赤井丹波守の住居（館跡）なりと後年館主は佛沢に帰農せりと云ふ
- ⑨土佐屋敷 昔逆瀬川集落の跡と云はれ農耕文化の進展と共に現在地に移転したものと思われる
- ⑩⑪聖宮 ⑩聖宮⑪中江と云ふ地名共に古代の住居跡にして縄文中期（5000年～6000年）前の土器が出土している
- ⑫館 跡 向山と云へ大永（1521～1525）の頃か平山十郎築住スとあり館跡なり（会津古墳記）
- ⑬横穴古墳 7～8世紀頃（古墳時代末期）の古墳群である出土品は人骨多く、外ニ直刀一振、鉄ノミにも出土したと云ふ（現在不明）
- ⑭権現堂 村東を含む田畠及び屋敷一帯を云ふ。縄文前期の土器石器等数多く出土し信仰に用ふる土偶石器類あり



集落に残る古い地名が、寺社や館跡等の名残を伝えている例（佐賀瀬川）

(出典：『新鶴村 地名の由来』)

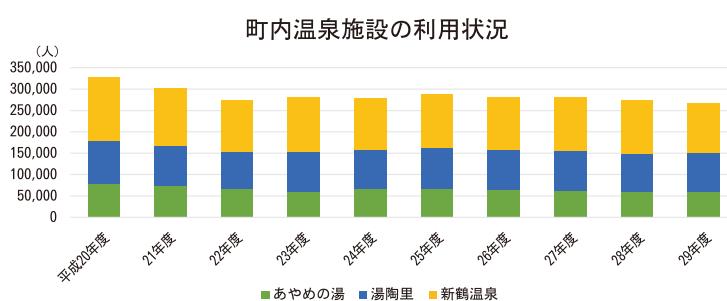
魅力が十分に認知されていないのが現状です。

また、前頁のような、古い地名と集落の歴史との関連も、観光資源の一つと考えられます。

(2) 観光客入込状況

町内には温泉施設が3施設、観光案内施設が2施設あります。そのほか、伝統工芸品である会津本郷焼の窯元が13(会津本郷焼事業協働組合加入数)あります。これらの施設では、毎年入込状況を確認しています(入込数については、下記表及びグラフのとおり)。

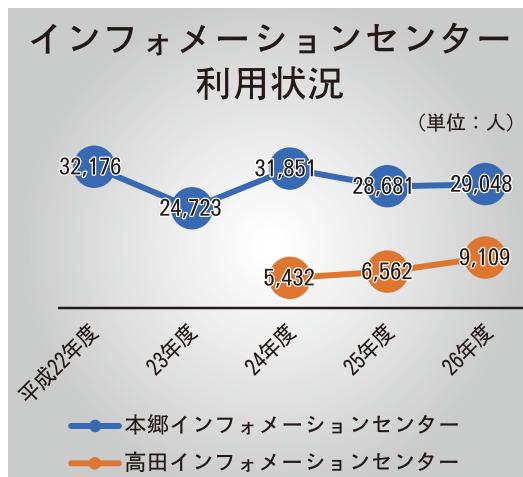
温泉施設以外は、平成23年(2011)度に一度大きく減少し、その後緩やかに増加、平成28.29年(2016.17)度にかけてまた減少しています。これは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災およびそれに伴う原子力発電所事故の影響により減少し、その後、復興のため福島県によるさまざまなキャンペーンが行われたほか、平成26~28年度にはJR東日本によるディスティネーションキャンペーンが実施されたことによるものと考えられます。



会津本郷焼事業協同組合共販所

施設名	平成20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
あやめの湯	78,270	73,491	66,166	60,010	67,830	67,081	64,486	63,430	59,257	59,585
湯陶里	99,430	93,292	85,758	93,843	91,317	95,956	93,118	92,075	90,132	93,006
新鶴温泉	149,594	133,949	121,336	126,862	120,223	124,484	122,695	123,837	124,170	114,883
計	327,294	300,732	273,260	280,715	279,370	287,521	280,299	279,342	273,559	267,474

(出典：福島県観光客入込状況調査)



本郷インフォメーションセンター

施設名	平成22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
本郷インフォメーションセンター	32,176	24,723	31,851	28,681	29,048
高田インフォメーションセンター	—	—	5,432	6,562	9,109

(単位：人)

(出典：福島県観光客入込状況調査)



(単位：人)

施設名	平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
中田観音	52,807	52,552	33,866	39,215	38,742	37,705	44,000	53,327	34,194
伊佐須美神社	1,026,750	1,453,800	1,352,000	1,397,500	1,457,500	1,454,000	1,472,000	1,324,800	1,239,750
会津本郷焼窯元	110,289	60,704	47,036	59,594	60,605	54,586	62,986	47,382	47,075

(出典：福島県観光客入込状況調査)

(3) 観光客の周遊傾向

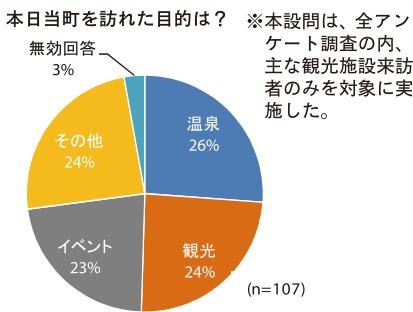
①民間事業者が誘致した町内ツアーの傾向

平成24年度から平成26年度にかけて、民間事業者による会津美里町へのツアー等誘客状況を確認すると、歴史関係、桜、焼物（会津本郷焼）をテーマにしたものや、広域周遊型のツアーが多く見られます。

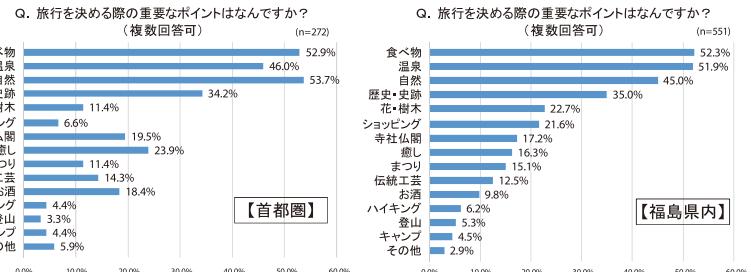
②観光客の動向

平成27年8月2日、せと市に来場者に対してアンケート調査を実施した結果、観光客が本町を訪れた目的は、温泉・観光・イベント等であることが分かりました。

また、これらの観光客が旅行を決める際の重要なポイントとしたものは、「食べ物」「温泉」「自然」が約50%を占めますが、ついで「歴史・史跡」が30%を占め、歴史文化の観光資源としての可能性を垣間見ることができます。



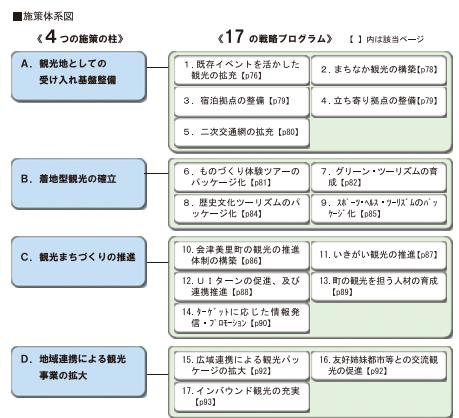
B-1 旅行を決める際の重要なポイント【首都圏／福島県内】



(4) 観光施策

観光施策として平成27年度に「会津美里町観光振興計画」を策定し、事業を展開しています。事業展開においては、本町を「文化と歴史のゾーン（高田地域中心）」「産業と歴史のゾーン（本町地域中心ゾーン）」等、地域の特色ごとにゾーンを形成し、4つの施策の柱と17の戦略プログラムに基づいて事業を実施しています。

(出典：「会津美里町観光振興計画」)



2-3 土地利用と都市計画規制

2-3-1 土地利用

本町の土地利用については、町土面積276.33km²に対し、森林が202.17km²（73.2%）、農用地が41.60km²（15.1%）を占めています。

総人口に占める販売農家人口は平成17年と平成27年を比較すると34.0%から25.3%と8.7ポイント減少しており、これにあわせて、農林業的土地利用は減少し、都市的土地利用が増加しています。今後この傾向は継続すると思われます。

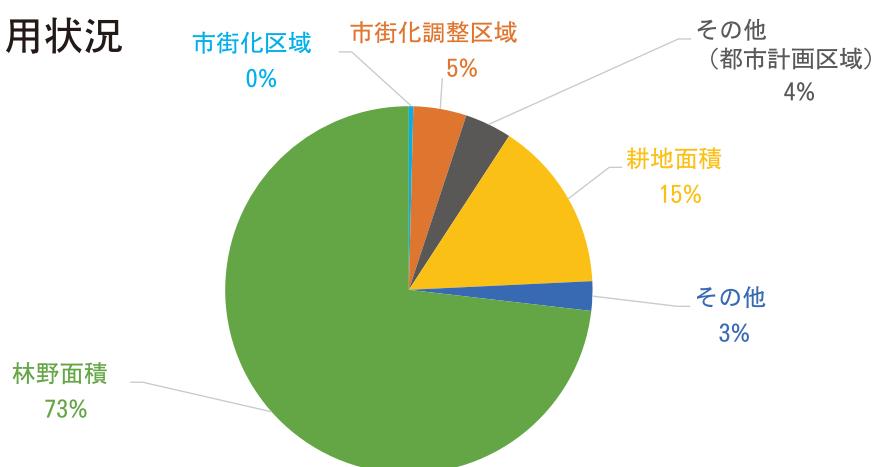
また、阿賀川・宮川周辺の北部や西部に広がる農地は、福島県有数の稻作地帯で、優良な農地が形成され、郷土を代表する会津盆地の田園風景を形づくっています（田33.20km²、水田率79.8%）。

表 土地の利用状況

可住地面積 ^{*1}		74.16 km ²		
都市計画区域面積			25.40 km ²	
市街化区域面積 ^{*2}				1.07 km ²
市街化調整区域面積 ^{*3}				12.93 km ²
その他 ^{*4}				11.40 km ²
耕地面積			41.60 km ²	
その他			7.16 km ²	
林野面積		202.17 km ²		
総面積		276.33 km ²		

（出典：「会津美里町地域防災計画書（第5版）」）

土地の利用状況



*1 総土地面積から林野面積及び湖沼面積を差し引いた面積

*2 都市計画区域のうち、計画的な市街化を図るべき区域として指定された区域を指す。

*3 市街化を抑制すべき区域として指定された区域を指す。

*4 区域区分非設定区域。市街化区域でも市街化調整区域でもない都市計画区域を指す。

2-3-2 都市計画規制

高田地域の一部に会津高田都市計画区域が、本郷地域の大部分に会津都市計画区域が指定されています。新鶴地域には都市計画区域等の指定はされていません。

会津高田都市計画区域では、「市街化区域」と「市街化調整区域」に区分はされておらず、市街地エリアに用途地域が指定されています。

一方、本郷地域は会津若松都市圏の一部として、都市計画区域が指定されており、市街地の主要な部分が市街化区域、その周辺が市街化調整区域に指定されています。

表 都市計画区域の指定状況

都市計画区域名	市町村名	範囲	都市計画区域		指定期年月日	最終変更年月日
			面積 (km ²)	人口 (千人)		
会津	会津美里町 (本郷地域)	一部	14.00	5.4	S45.9.1	
会津高田	会津美里町 (高田地域)	一部	11.40	7.2	S24.6.18	S58.9.9

(出典：「会津美里町地域防災計画書（第5版）」)

表 市街化区域及び市街化調整区域の指定状況

都市計画区域名	市町村名	市街化区域		市街化調整区域		合計面積 ①+② (km ²)	決定年月日	最終変更年月日
		面積 ① (km ²)	現在人口 (千人)	面積 ② (km ²)	現在人口 (千人)			
会津	会津美里町 (本郷地域)	1.07	4.1	12.93	1.3	14.00	S45. 10.15	H13. 4.10

(出典：「会津美里町地域防災計画書（第5版）」)

表 用途地域計画決定状況

都市計画区域名	市町村名	第1種低層住居専用地域 (km ²)	第2種低層住居専用地域 (km ²)	第1種中高層住居専用地域 (km ²)	第2種中高層住居専用地域 (km ²)	第1種住居地域 (km ²)	第2種住居地域 (km ²)
会津	会津美里町 (本郷地域)		0.059			0.743	
会津高田	会津美里町 (高田地域)	0.460		0.280		1.010	
	準住居地域 (km ²)	近隣商業地域 (km ²)	商業地域 (km ²)	準工業地域 (km ²)	工業地域 (km ²)	工業専用地域 (km ²)	計 (km ²)
		0.088		0.110	0.065		1.065
		0.140		0.160	0.250		2.300

(出典：「会津美里町地域防災計画書（第5版）」)

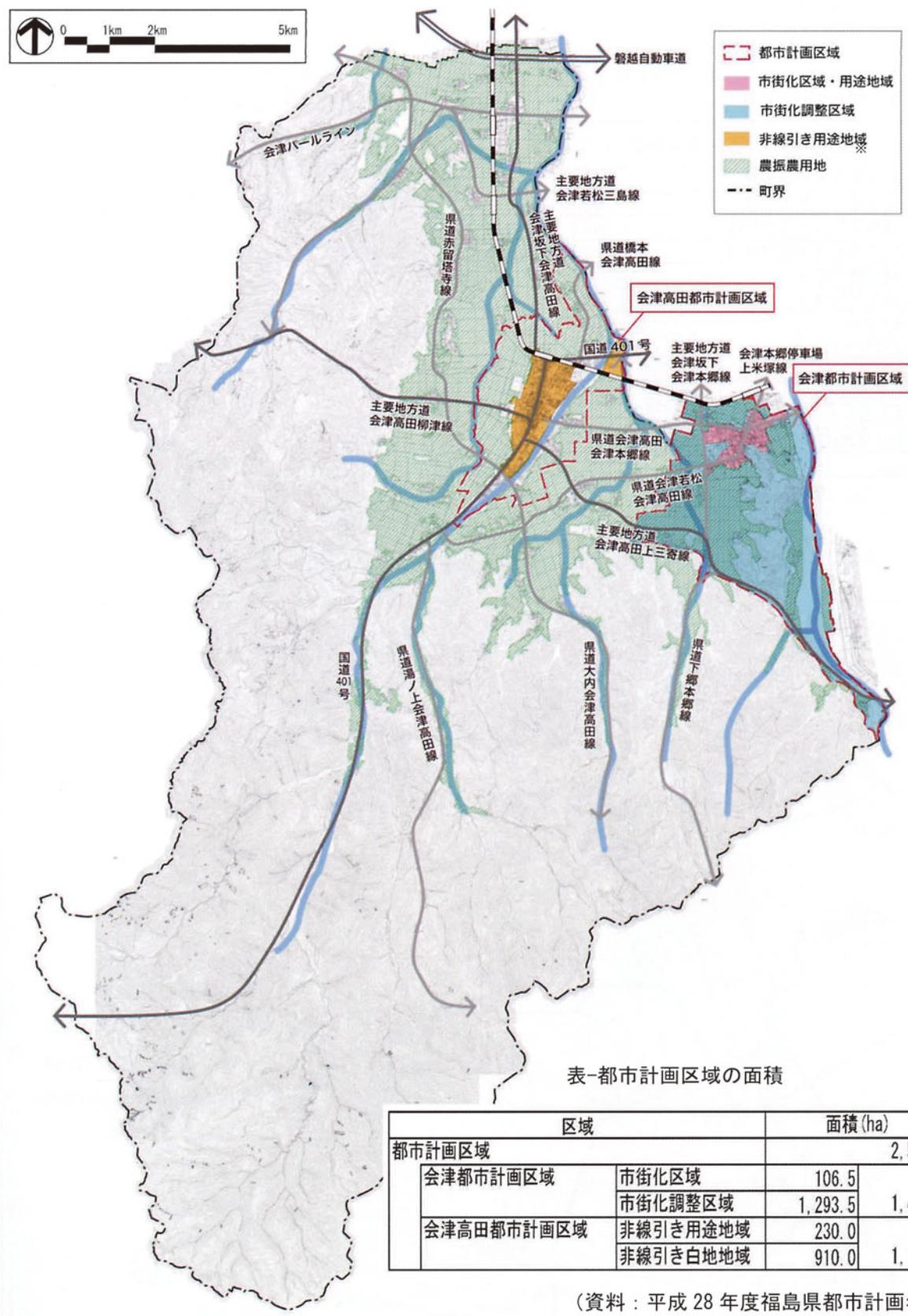


図 都市計画規制と農地の指定状況 (出典：「会津美里町都市計画マスタートップラン」)

2-4 交通

2-4-1 道路

本町の北端には平成9年にいわき市から新潟市までの全線が開通した東北横断自動車道いわき新潟線（磐越自動車道）が東西に走り、24時間利用が可能な新鶴スマートインターチェンジが設置されています。

また主要幹線道路である国道401号線は、会津若松市と高田地域の中心部及び昭和村を結びます。

そのほか、町内には数多くの県道が供用されており、県道会津坂下会津高田線、県道会津坂下会津本郷線、県道会津高田上三寄線、県道会津若松会津高田線等が基本的な交通網をなしています。

特に平成15年4月に開通した県道下郷会津本郷線（水玉バイパス）は、本郷から水玉峠を越えて、今では年間80万人が訪れる県内でも有数の観光地となった下郷町の「大内宿」を結ぶ路線であり、景色の良さからも観光振興に大きな期待が寄せられています。



新鶴スマートインターチェンジ

表 本町と隣接市町村を結ぶ主要道路

隣接市町村名等	路線名等	
	種 別	路線名
会津若松市（会津若松IC） 会津坂下町（会津坂下IC）	高速自動車国道	磐越自動車道
会津若松市（北会津町北後庵） 昭 和 村（小野川）	国 道	国道401号線
会津若松市（大戸町上三寄）	主 要 地 方 道 (県 道)	会津高田上三寄線
会津若松市（北会津町本田） 柳 津 町（軽井沢）		会津若松三島線
会津坂下町（五ノ併）		会津坂下会津高田線
会津若松市（北会津町金屋）		会津坂下会津本郷線
柳 津 町（軽井沢）		会津高田柳津線
会津若松市（門田町一ノ堰）	一 般 県 道	会津若松会津高田線
会津若松市（北会津町宮袋）		橋本会津高田線
会津若松市（北会津町上米塚）		会津本郷停車場上米塚線
会津坂下町（勝方）		赤留塔寺線
下 郷 町（大内）		下郷会津本郷線

(出典：「会津美里町地域防災計画書（第5版）」)

2-4-2 鉄道

会津若松駅を起点とするJR東日本只見線が町内をL字型に走り、会津若松駅から新潟県の小出駅へ通じています（平成31年3月現在一部バス代行輸送）。

本町には最寄駅として、会津若松駅寄りから、会津本郷駅、会津高田駅、根岸駅、新鶴駅があり、いずれも無人駅となっています。これらの駅に停車する列車の運行本数は合わせて1日あたり14本となっており、主な運行時間は、通学時間と重なる朝、夕に集中しています。

町内の自家用車所有率は高く、ほとんどの家庭では通勤に自家用車を利用するため、鉄道の主な利用者は、町内から会津若松市内及び会津坂下町にある高等学校等に通う学生となっています。

表 本町と隣接市町村を結ぶ鉄道路線

隣接市町村名	鉄道路線名	出発地域	隣接県における到着市町村	備考
会津若松市 会津坂下町	JR只見線	会津若松市	新潟県魚沼市小出	JR東日本



根岸駅

2-4-3 路線バス

町内を走る3本の路線バスは会津若松駅と高田、本郷、新鶴地域を結んでいます。会津若松～高田（永井野）は1日54本、会津若松～本郷（本郷車庫）は24本、会津若松～新鶴（新鶴温泉）は7本となっています。

路線バスも、鉄道と同様に利用者が大変少ない状況ですが、町内と会津若松を結ぶ重要な公共交通機関として機能しています。

2-4-4 デマンド交通

会津美里町ではデマンド交通システム「美里あいあいタクシー」が平成19年から導入されています。主な利用者は町内の高齢者で、平日の午前7時から午後4時半までの受付（予約制）となっています。



美里あいあいタクシー待合所「まつてらん処」

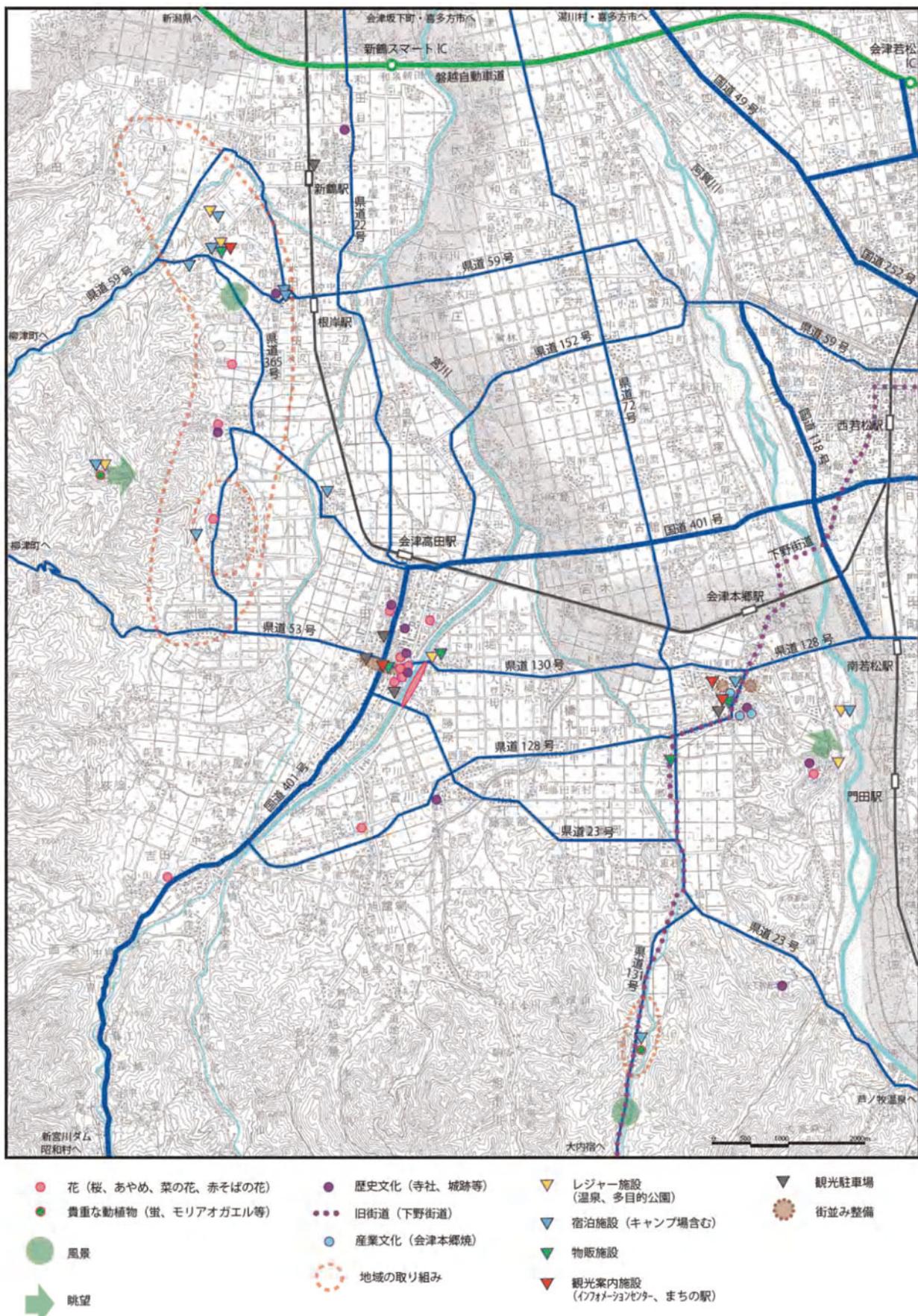


図 会津美里町の主要道路

(出典：「会津美里町観光振興計画」)

2-5 災害

2-5-1 地質に関わる災害

(1) 活断層による地震災害

本町には活断層である会津盆地西縁断層帯が走っています。この断層は北は新鶴地域立石田付近から、南は高田地域宮川地区まで全長約16kmに及ぶものです。

この断層によって過去に起こったとされる地震は、慶長16年（1611）に発生した慶長地震及び昭和18年（1943）に発生した田島地震であり、いずれも甚大な被害を出した巨大地震でした。

(2) 東日本大震災

平成23年（2011）3月11日、東日本大震災が発生し、岩手県・宮城県・福島県の沿岸部を中心に大きな被害をもたらしました。福島県では地震及び津波による被害に加え、東京電力福島第一原子力発電所事故による原子力災害が発生しました。この影響は、現在も風評被害として残り、本町の第1次産業においても大きな影響を及ぼしています。

本町においては、福島県沿岸部のような壊滅的な被害及び死傷者等の人的被害はありませんでした。一方、文化財における被害としては、町指定史跡である「登窯」が崩壊したほか、神社仏閣の灯籠や鳥居が倒壊しました。

(3) 地滑り、崩落

町土の約70%を山林が占める本町では、その地形を維持しつつ緩やかにすべる地滑りと、瞬時に原形を残すことなく粉砕しながら崩れ落ちる崩落は、身近な災害です。過去に地滑りを起こした地区としては、高田地域大室・大岩等があげられます。

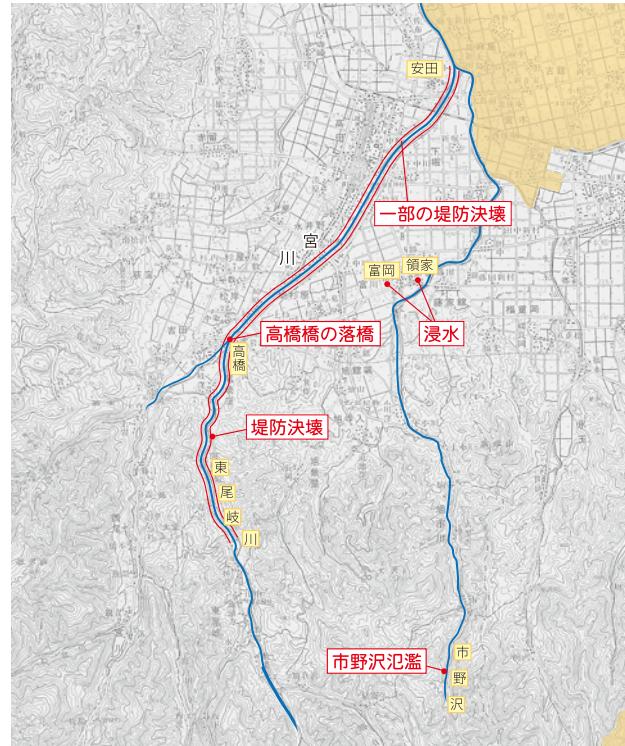
2-5-2 気象災害

(1) 大正2年の大洪水

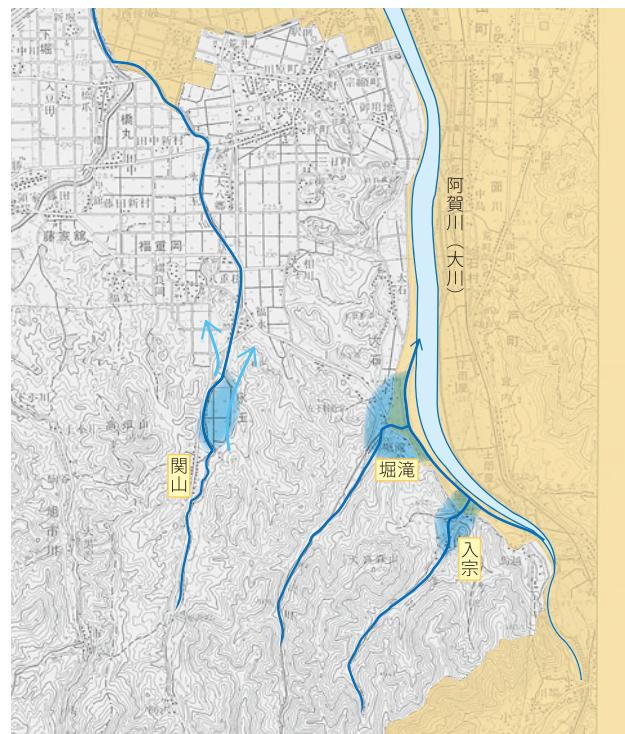
大正2年（1913）8月27日、台風による豪雨で町内の各河川が氾濫しました。

宮川の氾濫により、高橋橋は落橋、下流の一部では堤防が決壊し、高田地域安田集落48戸が浸水しました。この他にも、東尾岐川沿いの堤防決壊により水田が冠水、市野沢の氾濫・決壊により富岡・領家付近も浸水しました。

田畠が水に浸かったため、農作物も大きな被害を受け、大凶作となりました。



大正2年の被害地区



昭和15年の被害地区と流域

(2) 昭和15年の大水害

昭和15年（1940）8月26日の集中豪雨により、氷玉川が氾濫しました。関山集落上流より両岸の耕地を押し流し、川に沿って建設された県道を流出させ、堤防の決壊、橋の流出を引き起こしました。下流の水田は冠水、砂礫河川敷と化しました。その結果、昭和17年（1942）より、氷玉川の砂防工事及び護岸工事がなされました。

また、この集中豪雨により戸沢川、西の沢川も源流近くの沢々で山崩れが起こり、それによって生じた土石流によって河川が決壊し、下流の集落への甚大な被害をもたらしました。

(3) 昭和31年の大水害

昭和31年（1956）、6月下旬からの梅雨前線による降雨に加え、7月14日太平洋からの高気圧の影響を受け、会津地方に大豪雨をもたらしました。7月14日から15日にかけての総雨量は会津若松で289mmに達し、只見川や宮川が氾濫し、大被害を受けました。

本町では、山裾の集落にあった灌漑用堤や溜池の堤防が決壊し、その大量の濁流を受けた宮川、赤沢川、佐賀瀬川の堤防が次々に決壊、高田地域では16名の死者を出す大惨事となりました。この大水害は人的被害に加えて、家屋、農地、道路、鉄道にも甚大な被害をもたらしました。

繰り返される水害から町を守るため、昭和38年（1963）、宮川防災ダムが完成し、現在では宮川による水害は減少しました。

表 昭和31年の被害状況（出典：『会津高田町誌』）



佐賀瀬川の氾濫

（出典：「新鶴村村制100周年記念誌」）



水害記念碑（雀林）



宮川防災ダム

（出典：『会津高田町史 第一巻』）

		高田 地区	永井野 地区	旭 地区	藤川 地区	赤沢 地区	尾岐 地区	計
人的 被害	死者		16					16
	行方不明							
	負傷・軽傷	1						1
	計	1	16					17
家屋の 被害	流失（住家）		3					3
	流失（非住家）		11					11
	小計		14					14
	半壊（住家）					9		9
	半壊（非住家）		1			4		5
	小計		1			13		14
	床上（住家）	10	5	4		150	1	170
	床上（非住家）					40		40
	小計	10	5	4		190	1	210
	床下（住家）	33	30	15		243	9	330
耕地の 被害 (町)	床下（非住家）					82		82
	小計	33	30	15		325	9	412
	計	43	50	19		528	10	650
	計	58	35	19		528	10	650
道路 橋梁 その他	田（流天埋没）	3	38		4	91		136
	田（冠水）	60	28	26	46	103	2	265
	畠（流天埋没）	5	2		4	30	1	42
	畠（冠水）	20	6	5	8	11		50
	計	88	74	31	62	235	3	493
道路 橋梁 その他	道路決壊	2	11	1	1	6	5	26
	橋梁流出	1	7		1	3	3	15
	橋梁破損				3		2	5
	堤防決壊	5		2	19			26
	溜池決壊					6		6
	井堰決壊			25				25
	計	8	18	28	24	15	10	103

3 歴史的背景

3-1 先史

3-1-1 縄文時代以前

本町において現在まで旧石器時代の遺構は見つかっていませんが、冴宮西遺跡において剥片1点、碎片4点が出土しています。縄文時代に入ると人の生活の痕跡が認められるようになり、縄文時代草創期から弥生時代の古い段階まで、現在の本町内を移動しながらも、ほぼ継続して生活を営んでいたようです。草創期の遺跡としては、撫糸文土器が発見された鹿島遺跡があり、縄文時代早期では田戸下層式・茅山下層式の土器が発見された北平遺跡、下谷ヶ地平C遺跡、下萩曾根遺跡があります。

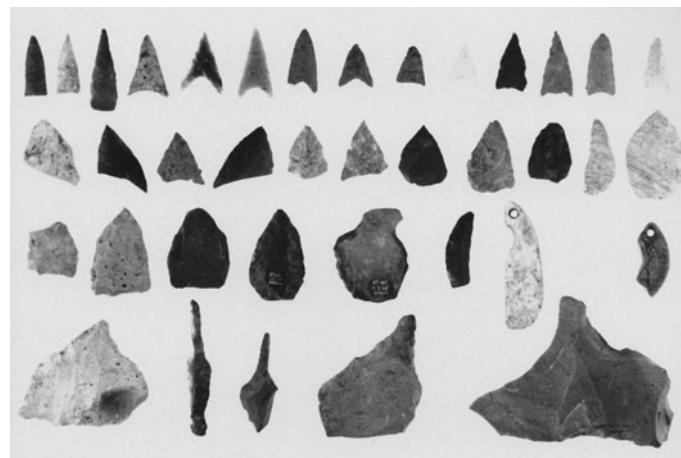
縄文時代前期になると、遺跡数も増加し、前期前半および後半の住居跡が発見された鹿島遺跡、大木3式並行の土器が出土した鷺沢遺跡、玦状耳飾が出土した冴宮西遺跡、花積下層式、関山式並行の土器が出土した中冴遺跡等があります。これらの遺跡は町の西側山裾に展開しており、福島県内でも縄文時代前期における各段階の土器がこれほど多くまとまっている地域は少ないのではないかと思われます。

縄文時代中期では、油田遺跡や高田地域の発掘調査において最も多量の遺物が出土している道上遺跡があります。

縄文時代中期後半から後期初め頃では、中期後半の甕を伴う住居跡が発見された十五壇遺跡、道上遺跡があり、土器の装飾状況は次第に衰退していく傾向にあります。

後期中頃から後半では、加曾利B2・B3式の土器が多く出土した下谷ヶ地平A遺跡、竪穴住居跡4軒、土坑19基を検出し、加曾利B式土器が主体を占めた北平遺跡があります。

縄文時代晚期では、大洞B式土器がまとめて出土した上冴A遺跡、また大洞A式土器、大洞A'



冴宮西遺跡（縄文時代早期・中期）より出土した石器
(出典：『冴宮西遺跡』)



北長尾遺跡（縄文中期）の住居跡複式炉
(出典：『新鶴村遺跡発掘報告書 北長尾遺跡』)



油田遺跡出土遺物

式土器の精製土器、半精製土器が発見された北ノ前遺跡、下谷ヶ地平C遺跡、権現山下遺跡があります。

3-1-2 弥生時代

弥生時代は、縄文時代と比較して遺跡の数が減少します。本町には、南御山式土器や大型壺が出土した権現山下遺跡、天王山式土器が出土した下堀際遺跡、南御山式土器や天王山式土器が出土した鷺沢道南遺跡等があります。

また、五本松遺跡は南御山式期の壺が狭い範囲から集中的に出土したことから墓坑群の存在が推定されます。特徴としては、弥生時代前期から中期の資料は豊富に出土しているものの、後期になると遺物の量が少なくなる傾向があります。

3-2 古代

3-2-1 古墳時代

古墳時代では、八重松から藤田にかけての丘陵地帯に藤田古墳群が形成されています。

旧会津高田町で実施した現地調査では10基の円墳が確認されており、これらは古墳時代後期の群集墳です。最も大きい1号墳は東西18m、南北19.5mの規模です。また、町の西側の佐賀瀬川から長尾原、根岸、米沢にかけては、佐賀瀬川横穴古墳群、根岸四八壇古墳群、米沢五つ壇古墳群が存在しましたが、そのほとんどが開墾や耕地整理等によって消滅してしまいました。しかしながら、その際に直刀や槍の穂先、人骨等が出土したとの話が伝わっています。

十五壇遺跡においては、竪穴住居跡より南小泉式や舞台式に並行する古墳時代中期から後期の杯、高杯、壺、甕や土製の紡錘車が出土しています。他に出土した遺物から住社式から栗圓式の段階とされ、古墳時代後期の6世紀後半から7世紀前半の集落と思われます。また栗圓式土器が出土した内城遺跡、竹原遺跡もあります。これらの遺跡では会津若松市の大戸窯産の須恵器も出土しています。

3-2-2 奈良・平安時代

奈良・平安時代では、8世紀前半までに会津郡が成立しており、会津郡衙推定地は会津若松市の郡山遺跡とされています。本町周辺では官衙に関係する遺跡は発見されていません。また大沼郡の成立についても詳細は不明です。

油田遺跡は主に縄文時代から古墳時代にかけての遺跡ですが、土師器や須恵器も多く出土しており、



油田遺跡出土遺物



八重松古墳出土石棺

それらの形式から8世紀から9世紀頃までも集落が存在していたと思われます。下堀際遺跡では9世紀の住居跡が13軒検出され、さらに底部に「行」と推定される墨書のある土師器が出土しています。

宮川ダムの建設に伴い発掘調査が実施された腰巻遺跡と北平遺跡では、平安時代の竪穴住居跡が検出され、出土遺物から9世紀中頃から後半にかけて営まれていたと推定されます。

大久保須恵器窯跡は、昭和59年（1984）に畑造成中に発見され、緊急調査が行われ2基の窯跡が検出されています。窯の操業時期は8世紀後半頃と推定されます。

3-3 中世

3-3-1 鎌倉時代

中世になると、文治5年（1189）の源頼朝の奥州藤原氏攻めにおける戦功により、奥州各地のうち、会津の地は相模の三浦一族の佐原十郎義連に与えられました。後に会津地方を中心に南東北に勢力をもった蘆名氏はこの佐原氏を祖とすると伝えられています。

一方、伊佐須美神社や法用寺等の寺社勢力は、古代から町域に大きな影響力を保持していました。13世紀から14世紀にかけては、本町の神仏再興期にあたります。特に文永11年（1274）には、佐布川の江川常俊が、銅造十一面観音を鋳造させ、中田の弘安寺の観音堂に納めています。応安元年（1368）には高田の龍興寺が再興されます。この時期には、会津の各地に仏閣が建立されたり、再建されたりしています。本町にも、この頃から16世紀にかけ、31もの寺が建てられています。

また、各地に館や柵等が多く築かれました。戦乱が続く中で応永9年（1402）に、高田宮挙兵の事件が起こります。この高田宮は伊佐須美神社の宮司と言われていますが、『塔寺八幡長帳』には「高田宮殿謀反起、次年ノ正月晦日即刻自害す」とだけあって、蘆名氏に滅ぼされています。

3-3-2 南北朝時代

南北朝時代になると、蘆名氏は次第に勢力を伸ばします。注目すべき史料として、觀応3年（1352）に奥州管領だった吉良貞家が、法用寺の別当職を「葦名禪師御房」に保証していることを示す史料があります。この人物については、系図等に出てくる人物との系譜関係が明確ではありませんが、蘆名氏と深いかかわりがあった人物であると窺えます。

しかしながら、法用寺というこの地に大きな勢力をもっていた寺院の別当職を保証されていたということは、蘆名氏にとって重要な意味を持っていたと思われます。

その後、蘆名氏は永享6年（1434）に蘆名盛久が「沙弥聖喜讓状」において「会津郡守護職」を譲られていることからも分かるように、会津郡においては「守護的」な立場でした。後に蘆名氏の職権の範囲は、会津四郡を含む地域に広がっていきました。

応仁の乱を契機として戦国時代が始まりますが、この時期、特に蘆名氏16代、盛氏（1521～1580）の時代に蘆名氏は全盛



向羽黒山城跡



向羽黒山城跡より出土した磁器片

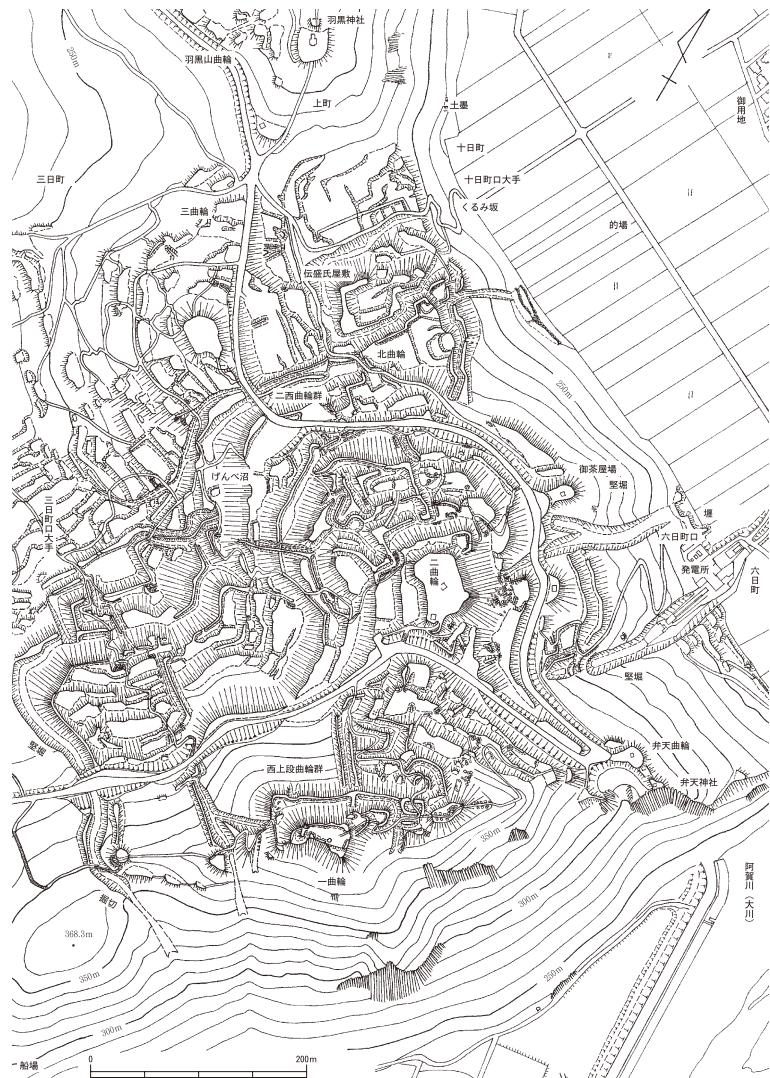
期を迎えます。

盛氏の祖父・盛高の頃から、会津周辺の諸氏との合戦が増え、特に仙道（福島県中通り地方）への出陣が多くなってきます。このことは、関東から南奥羽へ北進する常陸の佐竹氏との対決を引き起こすことになります。そこで蘆名氏は伊達氏や後北条氏とは同盟を結び、上杉氏や武田氏とは友好関係を持っていました。蘆名盛氏は、蘆名氏の系譜の中で、「中興の祖」とも呼ばれ、盛氏の治世には会津を中心にその支配領域が最大となり、南奥羽の一大勢力として隆盛を誇りました。

平成13年（2001）に国指定史跡になった向羽黒山城跡は盛氏が家督を子息の盛興に譲り隠居のために築いた城と伝えられています。しかしながら、伊達氏の台頭等周りの情勢が盛氏に隠居を促すような環境ではなく、佐竹氏との対決姿勢を強めていた時期でもあること等から、単なる隠居城ではなく、軍事的色彩の強い城との見方が近年なされており、戦国期の山城として重要な役割を担っていると注目されています。その他、町内にも山城跡や館跡が数多く確認されています。

この頃、盛氏は高田の郷に生まれた隨風（天海）を若松の稻荷堂の別当に招聘します。天海は、父を高田の豪族であった舟木景光、母を蘆名の一族として生まれたといわれています。のちに、徳川三代から尊崇を受け、上野寛永寺を建立して関東天台宗中興の僧として名をあげました。

本郷は多くの河川が南から北へ流れています。その流域は昔から水害に多く見舞われ、特に天文5年（1536）の「白髭の大水」は今までの流れを大きく変えてしまいました。それまで本郷の向羽黒山城の縁を巡っていた本流の鶴沼川*が決壊し、北に流域を大きく変えました。そして、その流れを大川と称するようになり、現在のような阿賀川（大川）の流



向羽黒山城跡縄張図（出典：「向羽黒山城跡V」）



天海大僧正石像

*ここでいう鶴沼川は、現在の下郷町や会津坂下町を流れる鶴沼川と異なります。諸説ありますが『会津旧事雜考』には、向羽黒山城の北の麓を西へ流れ、宮川・赤沢川と合流したとあります（p67の「阿賀川の流れの変化」参照）

路へと大きく変えてしまったのです。

3-3-3 安土・桃山時代

天正17年（1589）、蘆名義広は摺上原の戦いで伊達政宗に敗れ、蘆名氏は滅びました。その後、伊達政宗が会津を領しましたが、天正18年（1590）の豊臣秀吉の「奥州仕置」により米沢へ移され、代わりに蒲生氏郷が入ってきます。氏郷は居城である若松城とその城下づくりを行い、この時にはほぼ現在の会津若松中心部の原型ができました。また、産業にも力を入れ、美里の地に漆や木綿・麻の栽培を盛んにしました。

文禄4年（1595）に蒲生氏郷の死去に伴い、秀行が領主となり、その後、慶長3年（1598）から慶長6年（1601）までは上杉景勝、慶長6年から再び蒲生秀行が領主となりました。

本町には、伊達政宗が松沢寺領を安堵した「伊達政宗寄進状」と、中世文書の写しである「仁王寺文書」（いずれも町指定文化財）が残ります。

3-4 近世

3-4-1 会津藩による統治

慶長8年（1603）、徳川家康は征夷大將軍となり江戸幕府を開きました。蒲生氏はその後、寛永4年（1627）まで会津藩主でした。蒲生氏の後には、加藤嘉明が伊予松山より20万石を加増されて移封されます。

そして、寛永20年（1643）には加藤氏に代わり保科正之が入り、会津松平氏の祖となりました。これ以後、明治維新まで松平氏が会津一帯を治めます。この時、会津藩主は御蔵入5万1,000石の地を預かり地とし、会津藩領（175年間）と幕府領（43年間）とが5回も替わっています。御蔵入は幕府領という特権があるように考えられて、その地の農民は誇りを持っていたといいます。男女とも髪を結う元結いや、羽織の紐までに差があったというように風俗、習慣、言葉も異なっていた所があったと言われます。

この会津藩領と幕府領（御蔵入）の領域を含んだ現在の大沼郡東部に当たる区域が、会津美里町になっています。また、本郷地域には保科正之の入部とかかわりの深い「御弓新田」という地名が残っています。この集落は、平常は農民として田畠を耕し、会津藩に大事が起った際は、武器を手に防衛にあたりました。弓隊の集落であったため、「御弓新田」と呼ばれ、戊辰戦争の際には会津藩士として新政府軍と戦いました。

3-4-2 会津藩の政策の名残

町内には江戸時代における会津藩の政策の名残が多くありますが、代表的なものは下記の2つです。

1つは会津本郷焼で、これは会津藩の産業として興隆を極めました。会津本郷焼は、正保4年（1647）、岩瀬郡長沼（須賀川市）において焼物づくりをしていた美濃国瀬戸の陶工水野源左衛門が藩から瓦づくりを命ぜられたのがその起源とされています。

会津本郷焼は、会津藩の藩用窯として保護政策が展開され、藩営窯業として大規模に稼動していました。17世紀前半には、白磁の製作も開始され、陶器と磁器の両方が存在する焼物産地となり、これは現在でも引き継がれています。したがって会津藩の保護政策のもと、生産・販売等の分業体制が確立され、流通網も整備されていま



江戸時代につくられた本郷焼

した。

もう1つは下野街道です。若松城下の大町札の辻を起点とする会津五街道（下野街道・越後街道・米沢街道・二本松街道・白河街道）は幕府の街道整備の命により整備されたもので、本町におけるルートは、本郷から大八郷、福永、関山、柄沢を経て、氷玉峠・大内峠を越え大内（下郷町）へ至ります。参勤交代では、会津から江戸への最短ルートであり、会津藩はもちろん、他藩の利用もあったようです。

脇街道も発達し、大内から市野へのルートは高田・新鶴を抜け、坂下で越後街道と合流するルートで、明治初期にはイギリスの旅行家イザベラ・バードがこのルートを通っています。その時、戊辰戦争の焼け跡が未だ復興しない高田を見て「なんとみすぼらしい村だ」と述べています。

この下野街道においては、平成15年（2003）4月に供用を開始した県道下郷会津本郷線の開設工事に伴い、平成7年（1995）及び平成9年（1997）に氷玉峠頂上付近において記録保存のための発掘調査が実施されました。調査の結果、長さ約30m、幅約1.5mの石畳が検出されています。

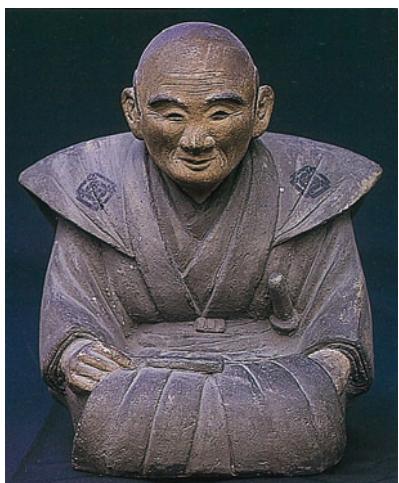
そもそも、本町では、古くから奥会津へのいくつもの峠道が開かれていました。西には、赤留峠、狭間峠、博士峠等が奥会津との交流の重要路となっていました。また、南には桧和田峠、結納峠、市野峠、大内峠が南会津・関東への往還の出入口として、江戸期になると行政、商業、文化の交流には欠かせない生活道路・軍用道路としての役割を果たしてきました。特に永井野・胄・東尾岐の3組は、幕府領（御蔵入）となり、田島陣屋への往還路としてこの峠道は人や物資の行き来が頻繁となっていました。

この頃になると、越後から若松の城下を通らずに、坂下の宿駅から、高田、市野の宿駅を経て大内宿へ通じる下野街道の脇道として、商人たちの往来が激しくなってきます。下越の新発田藩や村上藩が参勤交代に利用し、戊辰戦争時には、二本松藩の姫君避難の道でもありました。また、この下野街道は会津藩の江戸廻米の通路となり、高田村も重要な宿駅の役目を果たしていました。

3-4-3 戊辰戦争の影響

幕末の戊辰戦争では、会津藩は大きな痛手を受けます。本町も否応なく戦火に巻き込まれました。

伊佐須美神社が軍事拠点となり、若松城下の兵站地として激しい戦いの場となりました。そのため高田村はほとんどの家屋が焼失してしまいます。御蔵入の東尾岐組・永井野組、胄組には城下からの避難民が多数押し寄せてきました。この地区には寺入への会津藩家老丹羽五郎の家族の避難や、会津



陶祖 水野源左衛門（上）
磁祖 佐藤伊兵衛（下）



下野街道にある柄沢の一里塚

藩からの要請で、旭地区の無量・長岡において藩士や若松の商人の家族を403人の避難民を受け入れた記録が残っています。

また、戊辰戦争では、本郷や上荒井新田の陶業者が参加しました。藩主より土分の待遇を受けていた御弓新田の40余名は、御留守居役寄合銃隊（後に萱野隊寄合組に改める）に所属し、萱野右兵衛のもと、越後前線で戦い、7名の戦死者を出しています。現在、観音山にある「死節碑」にはその経緯等が書かれています。その後、萱野右兵衛は本郷に住み、窯元の手助けで水車番をし、「萱野車」と呼ばれました。

3-5 近代

3-5-1 明治時代

明治元年（1868）12月7日、新政府は陸奥国を磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の5国に、出羽国を羽前、羽後の2国に分けました。ただし、これは単なる地理的名称として扱われました。

その後、明治2年（1869）5月、若松県が設置されます。県庁が若松城に置かれ、田島・津川に支庁が、その他3つの出張所が置かれました。さらに、明治3年（1870）には若松県は1～57区に分けられ、翌年には戸数・人口・職分調査を行い、『若松県管轄人員録』が作成されました。

しかし、明治9年（1876）、若松県は廃止され、福島県・磐前県・若松県を合わせた福島県へかわります。福島県は明治9年に26区へ分けられ、本町（大沼郡）は第16区とされました。

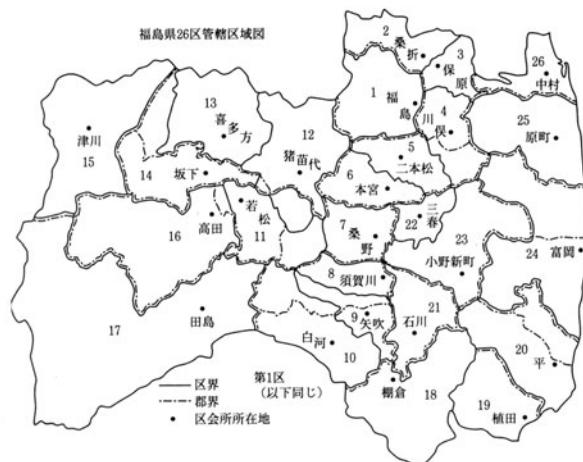
区会所が高田村清龍寺（現在の高田地域清龍寺）に設置されますが、明治12年（1879）に大沼郡役所が設置されました。当初は、第16区会所の置かれていた清龍寺に、郡役所が置かれました。この郡役所は大正15年（1926）に廃止されるまで続きます。

明治16年（1883）には行政区画の改正が行われ、大沼郡には10か所の戸長役場ができました。

明治22年（1889）に市制・町村制の施行及び、府県制・郡制の公布が行われ、地域の有力者を担い手とする地方自治制が制度的に確立されました。これにより、町村の費用負担を節約し軽減するため、大規模な町村合併が半ば強制的に遂行され、高田村、永井野村、赤沢村、本郷村、氷玉岡村、川路村、田川村、東尾岐村、新田村、鶴野辺村の新村が創出されました。



下野街道沿いの戦死四十人墓



福島県26区管轄区域図

（出典：『会津高田町史 第一巻』）



大沼郡役所（出典：『会津高田町史 第一巻』）

町村制が施行されると、戸長役場はなくなり、各町村に役場組織ができました。それにともない、町村会が設置されます。

町村会議員の人数は人口によって決められていました。町村会では、村条例・規則を設け、改正すること、町村費を使った事業の承認、予算決定、決算承認等が協議されました。

一方、明治6年（1873）に地租改正条例が発布されると、農地一筆ごとに地券が発行され、貢納義務（金納）が発生しました。

この影響により、農民の騒乱が増加し、農村への急速な貨幣経済が流入することで、明治半ばには、地主階級が成長してきました。

また、福島においては河野広中による自由民権運動が活発化しますが、会津においても自由民権運動が激化します。明治15年（1882）、福島県令に着任した三島通庸が、三方道路の開削において、人々の無償労役徴発を行うとともに、自由民権運動への弾圧を加えます。そのため、彈正ヶ原（喜多方市）にて喜多方事件が勃発し、これにより会津の自由民権運動は徹底的に弾圧されました。本町でも佐治与松、佐治幸平のような自由民権家が活動していました。

産業においては、特産品であった会津本郷焼が戊辰戦争によって壊滅的な打撃を受けていましたが、若松県の援助を受け（後に福島県にも引き継がれます）、復興します。明治10年（1877）から明治23年（1890）にかけては、全国勧業博覧会において本郷から多数の賞を受けるものが多く、全国に知られるほどの力をつけました。そのため、最盛期には100以上の窯元があり、焼物を焼く煙のたちのぼらない日がないといわれるほどでした。また、明治20年（1887）頃より本郷で良質な碍子がつくられ始めたことも、会津本郷焼発展の一助となりました。

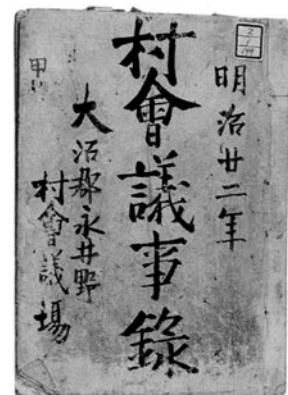
3-5-2 大正時代

大正期は、全国的には米騒動や関東大震災が起こり、不安定な時期もありました。

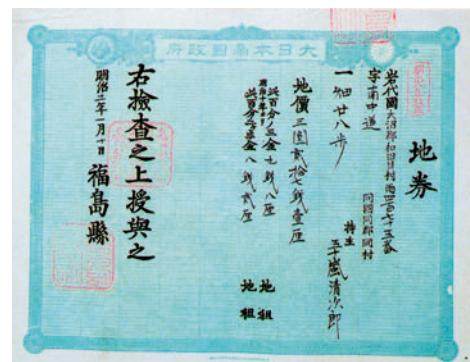
本町においては、大正5年（1916）、現在の本郷地域の瀬戸町より出火した炎が、たちまち付近一帯に広がり、死者5名・負傷者28名・焼失戸数206戸・半焼戸数6戸の大惨事となりました。後に「本郷大火」と呼ばれ、この時、天皇皇后両陛下より罹災者御救恤として金150円（当時）が下賜されました。

3-5-3 昭和時代

昭和に入ると、日中戦争、太平洋戦争と戦争が続きます。本町も例外ではなく戦時色が濃くなり、町常会・町内会常会が設置され、徵兵制



永井野村會議事録
(出典：『会津高田町史 第四巻』)



地券（出典：『ふるさと新鶴村』）



佐治幸平
(出典：『会津高田町誌』)



本郷大火での犠牲者を供養するための地蔵尊

による国民の兵役義務が課されて徵兵検査も行われました。郷土部隊として若松に仙台の歩兵第二九連隊が移駐、町の婦人会等では慰問を行っていました。満蒙開拓も叫ばれて、ハルピン郊外へ「伊佐須美郷」を建設しようとしましたが、希望者はありませんでした。

昭和12年（1937）には「防空法」が公布され、防空演習の実地訓練が行われました。

昭和14年（1939）頃から食糧不足に陥り、米の供出が開始され、金属・ゴム・ボロ・羊毛製品等の資源回収・供出も始まりました。戦争が進むと物資は統制され、配給制となり、食料品の切符配給制、衣料切符が交付されました。

戦時下の諸団体として、本町でも銃後奉公会、消防団、在郷軍人分会、会津文化協会高田町支部、愛國婦人会、大日本国防婦人会等が結成され、銃後の守りとして役目をはたしました。

教育においては、国民学校が発足しますが、戦中の食糧難により校庭が畑に、道路の脇には豆を植えたりしました。主な労働力は女性や子どもとなり、授業にも軍事教練や学校農園での作業が行われていました。

また、東京からの学童集団疎開の受け入れを行っており、宿泊場所には、旅館や料理屋等が当たらされました。

3-6 現代

3-6-1 戦後の混乱

昭和20年（1945）8月15日、終戦を迎えます。進駐軍は、会津若松市旧連隊兵舎に駐留しました。町内も巡回し、武道用具の撤去、奉安庫の破壊、授業参観による指導等が行われました。

戦争中集団疎開していた児童達は、本町で終戦を迎えました。10月頃になると集団疎開の引き揚げが始まりました。本町の復員及び引揚者数は、はっきりしていませんが1,000人以上いたといわれています。満州からの引揚者が一番多く、次いで、南洋諸島・朝鮮・中国・樺太等でした。

敗戦直後は、復員・引き揚げ等による人口増加と、昭和20年の大凶作により物価が高騰し、大変な食料難に陥りました。配給が少なく、高価な「ヤミ物資」を購入して生活し、町から農家への「買い出し」の様子も見られました。住宅難であり、衣料品・日用品が不足しましたが、一方で生活用品をつくっていた会津本郷焼が大売れしました。

昭和24年（1949）後半からは、ようやく物価が安定し、食糧事情も落ち着きます。苦しい生活の中での楽しみとして、演芸会が流行しました。一部の地域では集落ごとに演芸団が作られ、特に赤留の演芸団は人気がありました。戦後には、復員兵も加わり、素人演芸会といわれるようになります。この他にもパチンコ店、芝居劇場、映画館が町内につくられました。



国防婦人会の慰問袋づくり

（出典：『会津高田町史』第一巻）



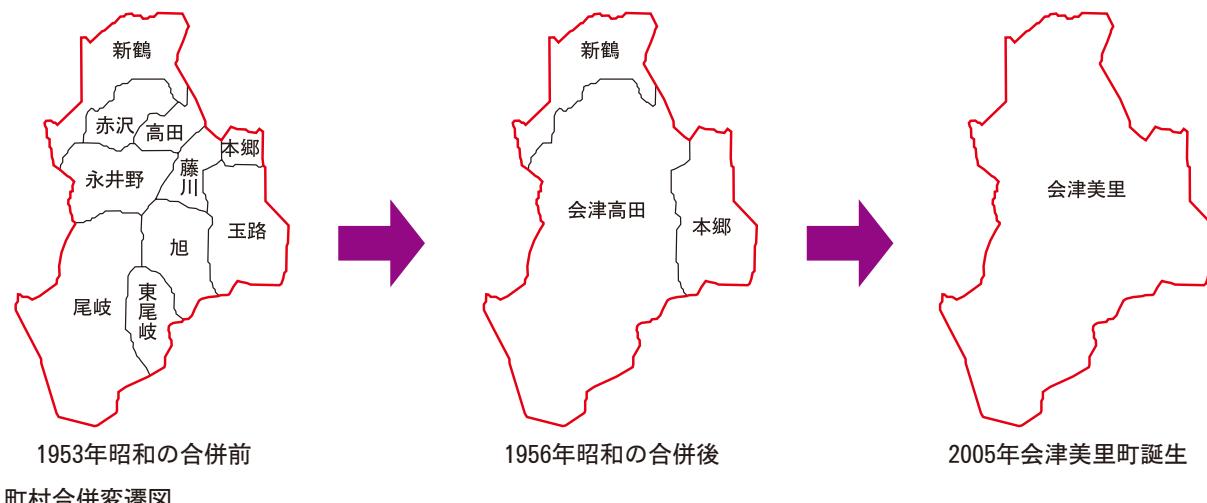
防空訓練（出典：『会津高田町史』第一巻）

3-6-2 町村合併

昭和28年（1953）の町村合併促進法公布により、町村合併の動きが出てきます。昭和30年（1955）には高田町・永井野村・旭村・藤川村・赤沢村・尾岐村・東尾岐村が合併して会津高田町へ、昭和29年（1954）には本郷町・玉路村（川路村・氷玉岡村が大正14年（1925）に合併）して本郷町へ、昭和24年（1949）には新鶴村（新田村・鶴野辺村が明治31年（1898）に合併）に大谷地・市野・上平・二岐が併合して新鶴村へ変わります。

そして、平成17年（2005）～平成18年（2006）にかけて平成の大合併が全国的に進められます。会津地方の各市町村においても様々な合併が検討され、以前から同じような生活習慣や文化を持つ会津高田町・会津本郷町・新鶴村・北会津村との合併が話し合わされました。しかし、北会津村は諸事情により会津若松市との合併を選びます。

平成14年、会津高田町・会津本郷町（平成4年（1992）に「会津本郷町」に町名変更）・新鶴村の三町村合併協議会が発足（事務局は会津高田町役場）し、平成17年（2005）10月1日、本町が誕生しました。



第2章 会津美里町の文化財の概要と特徴

1 指定等文化財の状況

本町には、国宝1件、国指定10件、福島県指定が18件、会津美里町指定文化財87件、記録作成等の措置を構すべき無形の民俗文化財が1件あります（平成30年2月末日現在）。町村合併前の旧3町村において文化財指定がなされたものは、新町においてすべて継承しています。

福島県内に3件しかない国宝の内の一つ「一字蓮台法華經開結共（九巻）」や、国重要文化財「木造金剛力士立像」のような平安時代の木造彫刻など貴重な文化財が多く存在し、時代としては、弥生時代の集落跡の遺物である「油田遺跡出土品」から、現在も使用されている「登窯」等各時代のものがあります。

また、国の天然記念物であるニホンカモシカの生息が確認されています。

表 本町の指定等文化財件数

文化財区分	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡	古文書	考古資料	無形民俗文化財	有形民俗文化財	史跡	天然記念物	合計
国宝・国指定	4	0	4	1	1	0	0	0	0	1	0	11
県指定	3	1	7	2	0	0	0	1	0	1	3	18
町指定	2	5	14	13	0	6	3	10	2	23	9	87
合計	9	6	25	16	1	6	3	11	2	25	12	116

1-1 国及び県指定文化財

町内には、国宝1件を含め29件の国及び県指定文化財があります。

■国及び県指定文化財一覧

指定区分	名称			員数	時代	指定年月日
国宝 書跡	一字蓮台法華經開結共（九巻）			9	古代	昭和27年3月29日
国指定 建造物	常福院薬師堂			1	中世	明治37年2月18日
国指定 建造物	弘安寺旧觀音堂厨子			1	中世	昭和35年6月9日
国指定 建造物	法用寺本堂内厨子及び仏壇			1	中世	昭和35年6月9日
国指定 建造物	福生寺觀音堂			1	中世	昭和54年2月3日
国指定 彫刻	銅造十一面觀音及脇侍 不動明王・地藏菩薩立像			3	中世	昭和3年4月4日
国指定 彫刻	銅造阿弥陀如来及両脇侍立像			3	中世	昭和4年4月6日
国指定 彫刻	木造金剛力士立像			2	古代	昭和35年6月9日
国指定 彫刻	木造吉祥天立像			1	古代	平成19年6月8日
国指定 工芸品	朱漆金銅装神輿			1	中世	昭和16年7月3日
国指定 史跡	向羽黒山城跡				中世	平成13年8月7日
県指定 建造物	法用寺三重塔（附板絵図）			1	近世	昭和55年3月28日
県指定 建造物	法用寺觀音堂			1	近世	平成20年4月4日

県指定	建造物	左下り観音堂	1	近世	平成26年9月30日
県指定	絵画	絹本著色両界曼荼羅（二幅）	2	中世	昭和47年4月7日
県指定	彫刻	木造狛犬（一対）	1	中世	昭和28年10月1日
県指定	彫刻	木造十一面觀音立像	1	中世	昭和38年4月23日
県指定	彫刻	木造十一面觀音立像（桂）	1	中世	昭和43年12月10日
県指定	彫刻	木造十一面觀音立像（櫻）	1	中世	昭和43年12月10日
県指定	彫刻	伝・木造得道上人坐像	1	中世	昭和43年12月10日
県指定	彫刻	木造聖徳太子立像	1	中世	昭和55年3月28日
県指定	彫刻	木造薬師如来坐像	1	中世	平成29年4月7日
県指定	工芸品	銅鐘	1	中世	昭和30年12月27日
県指定	工芸品	十一面觀音板木	1	中世	昭和46年4月13日
県指定	無形民俗文化財	伊佐須美神社の田植神事		－	昭和55年3月28日
県指定	史跡	大光寺供養塔（板碑）		中世	昭和54年3月23日
県指定	天然記念物	蓋沼の浮島		－	昭和31年9月4日
県指定	天然記念物	米沢の千歳ザクラ		－	昭和33年8月1日
県指定	天然記念物	伊佐須美神社のフジ		－	平成11年3月30日

(平成31年2月末日現在)

1-2 町指定文化財

町内には87件の町指定文化財が存在します。

■町指定文化財一覧

指 定 区 分		名 称	員数	時代	指定年月日
町指定	建造物	肝煎の家に伝わる門	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	建造物	大宝院不動堂附棟札	1	近世	平成29年3月16日
町指定	絵画	絵画絵馬狩野法眼画	1	中世	昭和49年12月1日
町指定	絵画	絵画掛軸鷹絵	1	中世	昭和49年12月1日
町指定	絵画	松本図書父子肖像掛軸	1	中世	昭和51年4月30日
町指定	絵画	香村の絵馬	1	近世	平成3年1月10日
町指定	絵画	天明飢饉之図	1	近世	平成12年4月25日
町指定	彫刻	木造薬師如来坐像	1	中世	昭和44年6月20日
町指定	彫刻	木造不動明王立像	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	彫刻	銅造大聖歡喜天立像	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	彫刻	木造馬頭觀音像	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	彫刻	木造十一面觀音立像	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	彫刻	木造十一面觀音菩薩坐像	1	中世	昭和50年3月25日
町指定	彫刻	木造六地藏立像	6	中世	昭和50年3月25日
町指定	彫刻	木造大日如来座像	1	中世	昭和53年2月1日
町指定	彫刻	木造田子薬師如来坐像・脇侍日光菩薩・月光菩薩像	3	古代	昭和53年2月1日
町指定	彫刻	法用寺觀音堂内三十三觀音像	19	中世	昭和58年1月28日
町指定	彫刻	木造阿弥陀如来及両脇侍立像	1	中世	平成12年4月25日
町指定	彫刻	田子薬師堂木造十二神將像	12	中世	平成15年3月24日
町指定	彫刻	木造毘沙門天立像	1	中世	平成17年3月18日
町指定	工芸品	法用寺礼盤	1	中世	昭和43年2月22日
町指定	工芸品	鰐口	1	近世	昭和47年5月20日
町指定	工芸品	「昼夜不退番」板	1	中世	昭和47年5月20日

町指定	工芸品	黄金扉	1	中世	昭和49年3月1日
町指定	工芸品	古代扉	1	中世	昭和49年3月1日
町指定	工芸品	抹茶碗	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	工芸品	染付松竹梅図仙蓋瓶	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	工芸品	鬼瓦	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	工芸品	銅板製釣灯籠（法用寺）	1	近世	昭和51年4月30日
町指定	工芸品	鉄華表（一対）	1	中世	平成6年4月1日
町指定	工芸品	立行事稻荷神社の金鈴	1	近世	平成8年4月26日
町指定	工芸品	染付圓通寺銘釘隱	1	近世	平成17年3月18日
町指定	工芸品	銅板製釣灯籠（伊佐須美神社）	1	近世	平成30年5月22日
町指定	古文書	田中文書四種	1	近世	昭和44年6月20日
町指定	古文書	日本紀竟宴和歌	1	近世	昭和49年3月1日
町指定	古文書	陶家先祖覚書	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	古文書	伊達政宗寄進状	1	中世	昭和51年4月30日
町指定	古文書	仁王寺文書	1	中世	昭和51年4月30日
町指定	古文書	狩獵文書	1	-	昭和51年4月30日
町指定	考古資料	香炉型土器	1	縄文	平成3年1月10日
町指定	考古資料	銅製経筒（下上野塚出土）	1	中世	平成3年1月10日
町指定	考古資料	油田遺跡出土品	1	縄文～弥生	平成27年3月19日
町指定	有形民俗文化財	駕籠	1	近世	昭和49年12月1日
町指定	有形民俗文化財	絵馬「農稼十二ヶ月之図」	1	近世	昭和52年5月10日
町指定	無形民俗文化財	高橋の虫送り	-	-	昭和41年7月20日
町指定	無形民俗文化財	佐布川の早乙女踊り	-	-	昭和42年3月29日
町指定	無形民俗文化財	西勝の彼岸獅子舞	-	-	昭和42年3月29日
町指定	無形民俗文化財	本郷甚句踊り	-	-	昭和49年12月1日
町指定	無形民俗文化財	本郷餅つき唄	-	-	昭和49年12月1日
町指定	無形民俗文化財	瀬戸市	-	-	昭和49年12月1日
町指定	無形民俗文化財	太々神楽	-	-	昭和50年3月25日
町指定	無形民俗文化財	高田甚句	-	-	昭和58年1月28日
町指定	無形民俗文化財	へびの御年始	-	-	昭和60年3月16日
町指定	無形民俗文化財	常福院田子薬師堂花祭り	-	-	平成24年12月28日
町指定	史跡	慈眼大師誕生地	-	中世	昭和43年2月22日
町指定	史跡	天海僧正両親の墓	-	中世	昭和43年2月22日
町指定	史跡	大沼跡	-	古代	昭和43年2月22日
町指定	史跡	古御田神社の地	-	中世	昭和43年2月22日
町指定	史跡	弘安十年銘石標	-	中世	昭和44年6月20日
町指定	史跡	伊佐須美神社奥宮の地	-	古代	昭和44年6月20日
町指定	史跡	御氷餅搗跡	-	近世	昭和47年5月20日
町指定	史跡	「芭蕉翁袖塚」碑	-	近世	昭和49年3月1日
町指定	史跡	八重松古墳	-	古代	昭和49年12月1日
町指定	史跡	柄沢の一里塚	-	近世	昭和49年12月1日
町指定	史跡	新屋敷一里塚跡	-	近世	昭和53年2月1日
町指定	史跡	宝篋印塔	-	中世	昭和53年2月1日
町指定	史跡	佐賀瀬川横穴古墳群	-	古代	昭和53年2月1日
町指定	史跡	石棺埋蔵地	-	古代	昭和53年2月1日
町指定	史跡	新国上総介頼基夫妻五輪塔	-	中世	昭和54年1月25日
町指定	史跡	智鏡塚	-	中世	昭和60年3月16日

町指定	史跡	鳳凰地蔵尊（地蔵一尊浮彫板碑）	－	中世	昭和63年2月10日
町指定	史跡	阿弥陀三尊種子板碑	－	中世	昭和63年2月10日
町指定	史跡	阿弥陀一尊種子板碑	－	中世	昭和63年2月10日
町指定	史跡	梁田館跡	－	中世	平成3年1月10日
町指定	史跡	館ヶ曾根の山城跡	－	中世	平成8年4月26日
町指定	史跡	吹上の円墳	－	古代	平成8年4月26日
町指定	史跡	登窯	－	近世	平成17年3月18日
町指定	天然記念物	竹原の大椿	－	－	昭和44年6月20日
町指定	天然記念物	虎の尾桜	－	－	昭和46年4月1日
町指定	天然記念物	薄墨桜	－	－	昭和46年4月1日
町指定	天然記念物	モリアオガエル	－	－	昭和49年12月1日
町指定	天然記念物	イチョウ	－	－	昭和49年12月1日
町指定	天然記念物	沢田稻荷のけやき	－	－	平成3年1月10日
町指定	天然記念物	伊佐須美神社社叢	－	－	平成6年4月1日
町指定	天然記念物	立行事稻荷神社の大杉	－	－	平成8年4月26日
町指定	天然記念物	天狗岩とノッチ	－	－	平成12年4月25日

(平成31年2月末日現在)

1-3 記録作成等の措置を構すべき無形の民俗文化財

平成27年3月2日、県指定文化財「伊佐須美神社の田植神事」は、「慶徳稻荷神社の田植神事」とともに、「会津の御田植祭」として、記録作成等の措置を構すべき無形の民俗文化財に選択されました。

■選択無形民俗文化財

指 定 区 分	名 称	員数	時代	指定年月日
選択	無形民俗文化財 会津の御田植祭	1	－	平成27年3月2日

(平成31年2月末日現在)

2 埋蔵文化財包蔵地

本町には284か所の埋蔵文化財包蔵地が存在し、その時代は、縄文時代をはじめとして、弥生・奈良・平安・中世・近世までの時代を包括しています。町村合併前の旧3町村において埋蔵文化財包蔵地登録がなされたものは、新町においてすべて継承しています。

284か所にものぼる埋蔵文化財包蔵地は福島県内でも多い部類に入ると思われます。本町において登録された埋蔵文化財包蔵地の大半は、昭和56年（1981）に始まった国営会津農業水利事業に伴う試掘調査及び発掘調査によるもので、さらに関連して実施された県営ほ場整備事業によっても登録された遺跡です。

国営会津農業水利事業は、農業経営の近代化を目指し、安定した用水確保のために日中ダム（喜多方市）、新宮川ダム及び各頭首工を新設し、幹線用水路を新設・改修すると共に、県営事業による付帯灌漑排水事業・ほ場整備事業を実施したものでした。この事業は喜多方市を中心とする会津北部地区、会津若松市を中心とする会津南部地区、旧会津高田町を中心とする会津宮川地区において実施され、この事業に伴う発掘調査は、財団法人福島県文化センター（現公益財団法人福島県文化振興財団）遺跡調査課及び当該市町村によって対象区域の各所において実施されました。

このような調査事業は、文献等に残されなかった古い時代の歴史や地域の歴史を知る上で極めて重要であり、これまでの調査によって過去の会津地方の様子が少しづつ明らかになりつつあります。

■埋蔵文化財包蔵地一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	主な時代	主な遺構・遺物
44700001	鷺沢遺跡	雀林字鷺沢	集落跡	縄・弥・奈～近	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器
44700002	鷺沢道南遺跡	雀林字鷺沢道南	集落跡	縄・弥・奈～近	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器
44700003	法用寺跡	雀林字三番山下	社寺跡	奈良～中世	
44700004	三番山下遺跡	雀林字三番山下・前沢	散布地	平安	土師器・須恵器
44700005	科任沢道北遺跡	雀林字科任沢道北	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器
44700006	寺崎遺跡	寺崎	散布地	縄文・平安	土師器・須恵器・石器
44700007	文田沢遺跡	八木沢字鷺巣山	散布地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器
44700008	上原遺跡	八木沢字上原	散布地	縄文	縄文土器
44700009	沼ノ上遺跡	字沼ノ上	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器
44700010	権現山下遺跡	八木沢字権現山下	集落跡	縄・弥・奈・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器
44700011	福泉寺跡	八木沢字福泉寺	社寺跡	中世	
44700012	山王社遺跡	八木沢字中道	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器・石器
44700013	油田遺跡	油田・沼ノ上・上江	集落跡	縄文～中世	再葬墓・縄文土器・弥生土器・土師器・土偶・石器・鉄製品・木製品
44700014	丸山遺跡	赤留字丸山	散布地	縄文	縄文土器
44700015	龍興寺遺跡	字龍興寺北甲	散布地	平安・中世	土師質仏頭・土師器・陶磁器
44700016	赤留遺跡	赤留字滝ノ前	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土偶
44700017	常明寺遺跡	赤留字滝ノ前	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器
44700018	館ノ越遺跡	字布才地	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・須恵器・石器
44700019	高田館跡	字館ノ越	城館跡	縄文・中世	土墨・堀・縄文土器・土師器・陶磁器
44700020	平遺跡	赤留字平	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器
44700021	鍛冶屋敷遺跡	赤留	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・須恵器
44700022	下萩曾根遺跡	永井野字下萩曾根	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・石器
44700023	徳林寺跡	字御藏南	社寺跡	近世	
44700024	神宮寺跡	字文珠西	社寺跡	中世	
44700025	清竜寺五輪塔	字文珠西	石造物	中世	
44700026	橋爪経塚	橋丸字橋爪	塚	平安	
44700027	今泉遺跡	赤留字今泉	散布地	縄文	縄文土器
44700028	漆原遺跡	字布才地	散布地	平安	土師器・須恵器・石器
44700029	寺崎提遺跡	字上戸原	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器・石器
44700030	八月田遺跡	永井野字八月田	散布地	縄文	石器
44700031	竹原遺跡	勝原字竹原	散布地	奈良・平安	土師器
44700032	五百刈遺跡	勝原字五百刈	散布地	弥生	弥生土器
44700033	松沢遺跡	松沢字山口	散布地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器・石器
44700034	松沢寺五輪塔	松沢	石造物	中世	
44700035	上戸原遺跡	上戸原字村北	散布地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器
44700036	中丸遺跡	永井野字中丸	散布地	縄文	縄文土器
44700037	橋爪宮南遺跡	橋丸字宮南	散布地	縄・弥・古	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器
44700038	内城遺跡	勝原字内城	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器
44700039	船岡館跡	杉屋字杉ノ内	城館跡	中世	郭・堀・土墨・大手口・処刑場・馬場

44700040	八百苅遺跡	荻窪字八百苅	散布地	縄文	縄文土器
44700041	沖ノ館主の墓	藤家館字沖ノ館	石造物	中世・近世	
44700042	鹿島遺跡	荻窪字鹿島・若林	散布地	旧・縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器
44700043	五本松遺跡	松岸字五本松	散布地	弥生	弥生土器
44700044	小白沢遺跡	荻窪字小白沢	散布地	弥生	弥生土器・陶磁器
44700045	民地遺跡	旭市川字桜窪	散布地	弥生・平安	弥生土器・土師器
44700046	三十刈遺跡	松岸字三十刈	集落跡	縄・弥・奈・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・土製品
44700047	上小白沢遺跡	松岸字上小白沢	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器
44700048	稻岡山古墳群	藤家館字稻岡	古 墳	古墳	
44700049	下所入遺跡	藤家館字下所入	散布地	弥生	弥生土器
44700050	上ノ原A遺跡	藤家館字上ノ原	散布地		弥生土器・土師器・須恵器
44700051	上道上遺跡	吉田字上道上	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器
44700052	海蔵壇遺跡	旭三寄字海蔵壇	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700053	下堀際遺跡	旭三寄字下堀際	集落	縄・弥・奈・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器
44700054	下杉前遺跡	旭三寄字下杉前	散布地	奈良・平安	弥生土器・土師器・須恵器
44700055	宮塚	旭館端字若宮	塚		
44700056	長岡館跡	旭館端字館ノ内	城館跡	中世	土塁・堀跡・郭
44700057	欠番				
44700058	弘安十年銘石標	吉田字村西	石造物	中世	
44700059	欠番				
44700060	宮ノ前遺跡	旭館端字宮ノ前	散布地	縄文・近世	陶磁器
44700061	狂言平遺跡	西本字大江沢	散布地	弥生・平安	弥生土器・土師器・須恵器
44700062	大西遺跡	西本字元胄	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・石器
44700063	冑宮西遺跡	西本字大久保	集落跡	旧石器・縄文	旧石器・縄文土器・石器
44700064	百目貫遺跡	西本字百目貫	集落跡	縄文	縄文土器・石器
44700065	延明寺跡	尾岐窪	社寺跡	中世	
44700066	十五壇遺跡	旭館端	散布地	縄～古・平	縄文土器・土師器・須恵器・土製品・石器
44700067	十五壇古墳群	旭館端	古 墳	古墳	
44700068	中胄遺跡	西本字中胄	散布地	縄文～平安	縄文土器・弥生土器・石器
44700069	諏訪南遺跡	旭寺入字諏訪南	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器
44700070	中胄塚群	西本字中胄	塚		
44700071	上胄A遺跡	西本字上胄	散布地	縄文	縄文土器・石器
44700072	上胄B遺跡	西本字上胄	散布地	縄文	縄文土器
44700073	星越中守墓	屋岐窪	石造物	中世	
44700074	松山沢遺跡	旭無量字松山沢	散布地	弥生・平安	弥生土器・須恵器
44700075	宮後遺跡	旭市川字東宮後	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器
44700076	長福寺跡	東尾岐字大神沢	社寺跡	中世	
44700077	宮の石神様	東尾岐字宮	石造物	中世	
44700078	観音遺跡	宮川	散布地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器・陶磁器
44700079	落合遺跡	宮川字川西	散布地	縄文・弥生	縄文土器・弥生土器
44700080	道上遺跡	松坂字道上	集落跡	縄文～平安	縄文土器・土師器・石器
44700081	北ノ前遺跡	松坂字北ノ前	集落跡	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・須恵器・石器
44700082	腰巻遺跡	松坂字腰巻	集落跡	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・鉄器・鉄滓・石器
44700083	下谷ヶ地平A遺跡	松坂字下谷ヶ地平	集落跡	縄文	縄文土器・土製品・石器

44700084	下谷ヶ地平B遺跡	松坂字下谷ヶ地平	散布地	縄・弥・平	縄文土器・弥生土器・石器・土師器
44700085	觀音寺跡	東尾岐字大平	社寺跡		
44700086	大光寺供養塔	藤家館字村北	石造物	中世	
44700087	下谷ヶ地平C遺跡	松坂字下谷ヶ地平	集落跡	縄文・弥生	縄文土器
44700088	北平遺跡	松坂字北平	集落跡	縄文・平安	縄文土器・石器・土師器
44700089	長沼遺跡	旭寺入字長沼	散布地	平安	土師器・須恵器・陶磁器
44700090	荻窪遺跡	荻窪字清水尻	散布地	弥生・平安	縄文土器・弥生土器
44700091	布才地遺跡	字布才地	散布地	平安・近代	土師器・陶磁器
44700092	熊野神社遺跡	旭三寄字村北	散布地	縄文	縄文土器
44700093	仁王A遺跡	吉田字村中	散布地	縄文	縄文土器・石器
44700094	仁王B遺跡	吉田字村中	散布地	平安・近代	土師器・陶磁器
44700095	仁王C遺跡	吉田字村中	散布地	平安	土師器
44700096	白井館跡	永井野字中町	城館跡	中世・近世	土壘・郭・堀跡
44700097	赤館跡	旭三寄字岩渕	城館跡	中世	土壘・堀切・二ノ丸
44700098	松岸館跡	松岸	城館跡	中世	土壘・郭・堀跡
44700099	小川館跡	藤家館字領家	城館跡	中世	土壘・郭・堀切
44700100	牧内館跡	宮川字牧場	城館跡	中世	
44700101	寺崎館跡	寺崎字館ノ前	城館跡	中世	
44700102	雀林館跡	雀林字新田屋敷	城館跡	中世	
44700103	八木沢館跡	八木沢字館脇	城館跡	中世	
44700104	古館跡	上戸原	城館跡	中世	郭・空堀
44700105	藤田館跡	藤家館字藤田	城館跡	中世	
44700106	西勝館跡	勝原字内城	城館跡	中世	土師器・陶磁器
44700107	佐々川館跡	旭市川字市野	城館跡	中世	郭・空堀
44700108	水沢館跡	東尾岐字水沢	城館跡	中世	
44700109	落合館跡	宮川字落合	城館跡	中世	
44700110	玉井館跡	橋丸字橋爪	城館跡	中世	
44700111	安田館跡	字安田	城館跡	中世	
44700112	沖ノ館跡	藤家館字沖ノ館	城館跡	中世	
44700113	東照寺跡	赤留	社寺跡	中世	
44700114	胄館跡	西本字元胄	城館跡	中世	
44700115	堀内館跡	東尾岐字遅沢	城館跡	中世	
44700116	中ノ館跡	東尾岐字勝負沢	城館跡	中世	
44700117	桧和田館跡	東尾岐字入桧和田	城館跡	中世	
44700118	谷ヶ地館跡	松沢字入谷ヶ地	城館跡	中世	
44700119	法憧寺跡	字法憧寺南	社寺跡	平安・中世	
44700120	伊佐須美神社跡	字宮林甲	社寺跡	奈良～近世	土師器・陶磁器
44700121	手児神社跡	松岸	社寺跡	中世	
44700122	欠番				
44700123	松沢寺跡	松沢字寺内	社寺跡	中世	
44700124	仁王寺跡	吉田字村中甲	社寺跡	平安・中世	
44700125	福生寺観音堂	富川字富岡甲	社寺跡	近世	
44700126	朝立神社跡	東尾岐字宮	社寺跡	中世	
44700127	大沼神社跡	勝原字竹原	社寺跡	平安・中世	
44700128	金跨神社跡	旭寺入	社寺跡	中世	
44700129	清龍寺跡	字文珠西	社寺跡	中世	
44700130	長福寺跡	永井野	社寺跡	中世	
44700131	竜門寺跡	尾岐窪	社寺跡	中世	
44700132	長光寺跡	字館ノ南	社寺跡	中世	
44700133	今泉寺跡	勝原字竹原	社寺跡	中世	
44700134	薬師寺跡	橋丸字橋爪	社寺跡	平安・中世	
44700135	高田代官所跡	字御藏南	その他	近世	
44700136	宮林塚	字宮林	塚	中世・近世	
44700137	觀音寺跡	字宮ノ腰甲	社寺跡	中世	
44700138	稻荷塚	字宮ノ腰	塚	中世・近世	
44700139	博士峠の一里塚	松坂字谷ヶ地	塚	近世	
44700140	上中川館跡	富川字上中川	城館跡	中世	

44700141	戦場供養塔	東尾山字戦場・戦場集会所前	石造物	中世	
44700142	上戸原中道遺跡	上戸原字中道	散布地	縄文	
44700143	御永餅搗趾	雀林	社寺跡	中世	
44700144	欠番				
44700145	權現山下塚群	八木沢字上野	塚・社寺跡	中世・近世	塚5基
44700146	大門雨窪遺跡	八木沢字南雨窪、北雨窪	社寺跡	中世・近世	土坑・溝状遺構・掘立柱建物跡・井戸跡
44700147	宝珠寺跡	字本郷	社寺跡	中世	
44700148	千代家五輪塔	字丸山	石造物	中世	
44700149	向羽黒山城跡	字船場	城館跡	中世	空堀・本丸・二ノ丸・三ノ丸・中国産染付
44700150	宗像神社	字船場	社寺跡	中世	
44700151	館山館跡	福重岡字館ノ下	城館跡	中世	郭・堀切・土墨
44700152	薬師堂五輪塔	福重岡字屋敷廻	石造物	中世	
44700153	歌川家五輪塔	福重岡字八重松前	石造物	中世	
44700154	螺良岡薬師寺跡	福重岡字堂地	社寺跡	中世	
44700155	古四王神社跡	氷玉字館山	社寺跡	中世	
44700156	柄沢観音堂	氷玉字柄沢	社寺跡	中世	
44700157	左下観音堂	大石字東左下り	社寺跡	中世	
44700158	法蓮寺跡	氷玉字村西山乙	社寺跡	中世	
44700159	穂谷沢柵跡	穂馬字天国	城館跡	中世	土墨
44700160	堅木岩洞窟遺跡	穂馬字第	散布地	旧石器・縄文	縄文土器・石器
44700161	関山壇原遺跡	氷玉字壇原	散布地	縄文	縄文土器・土偶・石器
44700162	一里塚	氷玉字柄沢	塚	近世	
44700163	大石遺跡	大石字家ノ北	散布地	奈良・平安	須恵器
44700164	船場遺跡	大石字上ノ台	散布地	縄文	縄文土器・須恵器・石器
44700165	荒井萬五郎館跡	字荒井	城館跡	中世	的場・本丸・二ノ丸・三ノ丸・陶器
44700166	家ノ下上遺跡	氷玉字家ノ下上	散布地	縄文	縄文土器
44700167	柄沢下遺跡	氷玉字柄沢下	散布地	中世	陶器
44700168	柄沢遺跡	氷玉字柄沢	散布地	縄文	縄文土器
44700169	鹿越山遺跡	氷玉字鹿越山	散布地	奈良・平安	須恵器
44700170	水神宮遺跡	氷玉字水神	散布地	奈良・平安	須恵器
44700171	瀬戸町窯跡群	字瀬戸町甲	窯跡	近世	
44700172	下野街道		その他	近世	
44700173	福永遺跡	氷玉字古屋敷	散布地	平安	土師器・須恵器
44700174	上小松館跡	氷玉字上小松	城館跡	中世	
44700175	相川館跡	氷玉字相川	城館跡	中世	郭・土墨・空堀
44700176	大石館跡	大石字館ノ内	城館跡	中世	
44700177	館ノ越遺跡	和田目字館ノ越	その他	奈良・平安	土師器・須恵器
44700178	北原遺跡	沼田字北原	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700179	木留場遺跡	沼田字木留場	その他	平安・中世	縄文土器・土師器・須恵器
44700180	西窪遺跡	沼田字西窪	散布地	縄文	縄文土器
44700181	東北堀遺跡	和田目字東北堀	散布地	奈良・平安	土師器
44700182	東台遺跡	和田目字東台	その他	弥・古・平	弥生土器・土師器
44700183	小沢田遺跡	和田目字八合田	石造物	中世	宝篋印塔
44700184	沢田宝篋印塔	和田目字沢田	石造物	中世	宝篋印塔
44700185	八合田塚群	和田目字八合田	塚	近世	
44700186	八合田宝篋印塔跡	和田目字八合田	その他	中世	宝篋印塔
44700187	上野遺跡	沼田字上野	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器
44700188	薬師壇遺跡	沼田字薬師壇	塚・散布地	縄文	縄文土器
44700189	前林遺跡	沼田字前林	散布地	縄文・平安	
44700190	稗田遺跡	小沢字稗田	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器
44700191	村北遺跡	小沢字村北	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700192	上沢ノ目遺跡	小沢字上沢ノ目	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器

44700193	南村中遺跡	和田目字南村中	散布地	奈良・平安	土師器
44700194	柳ノ内遺跡	和田目字柳ノ内	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700195	北大門A遺跡	和田目字北大門	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700196	北大門B遺跡	和田目字北大門	散布地	奈良・平安	
44700197	田子畠遺跡	和田目字田子畠	散布地	縄・弥・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器
44700198	堂屋敷遺跡	和田目字北中島	社寺跡	中世	
44700199	下大窪遺跡	沼田字下大窪	散布地	縄文・平安	縄文土器・須恵器
44700200	出戸田沢遺跡	沼田字二ノ久保	散布地	縄文	耳飾り・石器
44700201	前田遺跡	小沢字前田	散布地	奈良・平安	土師器
44700202	村西遺跡	小沢字村西	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700203	山王塚古墳	新屋敷字山王塚	古 墳	古墳	
44700204	天神塚	新屋敷字天神	塚	近世・近代	
44700205	宮前塚	新屋敷字宮前	塚		
44700206	沼田遺跡	沼田字入田沢	散布地	縄文	縄文土器
44700207	大久保遺跡	沼田字大久保	散布地	縄文・平安	縄文土器・須恵器
44700208	山ノ下遺跡	小沢字山ノ下	散布地	縄文・平安	縄文土器・土師器
44700209	牛首天王塚跡	小沢字小頭畠	塚		
44700210	梁田家墓碑	立石田字宮西	石造物	中世	
44700211	長尾原古墳群	立石田字大壇甲	古 墳	古墳	石廓・頭骨・直刀
44700212	東十二神遺跡	新屋敷字東十二神	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器
44700213	台畠遺跡	鶴野辺字北三百刈	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器
44700214	阿久津権現堂古墳	鶴野辺字三百刈	古 墳	平安	
44700215	向山横穴墓群	佐賀瀬川字向山	古 墳	古墳	直刀・人骨・柄頭
44700216	権現堂遺跡	佐賀瀬川字権現堂	散布地	縄文・弥生	弥生土器
44700217	吹上古墳	佐賀瀬川字東萱平	古 墳	古墳	
44700218	西屋敷遺跡	佐賀瀬川字西屋敷	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器
44700219	中江聖の宮遺跡	佐賀瀬川字宮前	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器
44700220	平林C遺跡	米田字平林・吹上下	散布地	縄文	縄文土器
44700221	四十八塙古墳群	米田字長尾	古 墳	古墳	直刀・バラ沢・内反リワラビ手刀
44700222	宮前遺跡	佐賀瀬川字宮前	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土偶・石器
44700223	平林B遺跡	米田字平林	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器
44700224	館ヶ沢遺跡	佐賀瀬川字館ヶ沢	城館跡・散布地	縄・弥・中	縄文土器・弥生土器
44700225	平林A遺跡	米田字平林	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700226	田原屋敷遺跡	米田字田原屋敷	散布地	縄文	縄文土器
44700227	水神遺跡	米田字水神	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700228	富塚屋敷遺跡	米田字富塚	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器
44700229	京塙古墳群	米田字京塙	古 墳	古墳	
44700230	五つ塙古墳	米田字蛇屋敷	古 墳	古墳	
44700231	石神堂遺跡	米田字石神堂	散布地	縄文・平安	縄文土器・須恵器
44700232	蛇屋敷遺跡	米田字蛇屋敷	散布地	縄・弥・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器・石器
44700233	中西浦遺跡	米田字池南	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700234	蛇合遺跡	米田字蛇合	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器
44700235	村前遺跡	米田字村前	散布地	奈良・平安	土師器・須恵器
44700236	京安林遺跡	沼田字京安林	散布地	縄文	縄文土器・石組炉
44700237	下大窪B遺跡	沼田字下大窪	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器
44700238	歌ノ沢遺跡	沼田字歌ノ沢	散布地	縄文	縄文土器
44700239	奥ノ院遺跡	米田字桑園	塚	中世	経筒・金滓
44700240	境野館遺跡	境野字境野	城館跡	中世	
44700241	境野天宗寺	境野	社寺跡	中世	
44700242	館ヶ曾根館跡	沼田字館ヶ曾根	城館跡	中世	土墨・堀切・空堀・郭
44700243	大久保須恵器窯跡	沼田字上大窪	窯 跡	奈良・平安	須恵器
44700244	上大窪塚群	沼田字上大窪	塚		
44700245	大久保B遺跡	沼田字大久保	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・黒色土器
44700246	大久保A遺跡	沼田字大久保	散布地	縄・奈・平	縄文土器・土師器・須恵器